

焼津市史

図説・年表

焼津市

焼津市史

図説・年表

焼津

焼津

館内

S223

焼津市立図書館

111679510

「カツオ縞（表紙カバーの地紋）」

白地に青い縞模様。大正末から昭和初期にかけて流行した焼津独特の厚手の木綿生地。筒袖のシャツ、ズボンに仕立てられ、漁師が作業着としてよく着た。漁船が大型化し、鹿児島など遠方の漁港に入港しても「鱈縞」のシャツを着ていればすぐ焼津の漁師とわかった。

焼津市史

図説・年表

序

市史編さん事業の集大成のひとつとなる『焼津市史 図説・年表』を刊行する運びとなりました。この市史編さん事業は、郷土に対する理解を深め、これからの焼津市の発展と文化の向上に資することを目的に進められてまいりましたが、平成一九年度をもって最終年度を迎えることとなります。市民の皆様の温かなご支援と、編さん委員、編集委員をはじめとする関係各位のご尽力により、これまでに「写真集やきつべ」、「資料編一 考古」、「同二 古代・中世」、「同三 近世」、「同四 近現代」、「同五 漁業」、そして「通史編 上巻」、「同 下巻」、「漁業編」、「民俗編」の一〇冊を刊行してまいりました。

『焼津市史 図説・年表』は、一二年間にわたる資料調査の中で明らかとなった膨大な資料を精選し、自然、原始・古代、中世、近世、近代、現代、民俗、文化財の八章に分けて編集いたしました。また、すでに刊行された資料編、通史編の成果を踏まえ、焼津市史の普及版としてわかりやすく親しめるよう努めました。子どもからご年配の皆様まで多くの方々にご覧いただくことにより、郷土への理解と愛着がいつそう深まるものと確信しております。

貴重な資料の提供をはじめとして、たいへん長きにわたって種々のご協力をいただいた多くの方々や関係諸機関、及び調査・執筆・編集にあたられた編集委員各位に対しまして、あらためて厚く御礼申し上げます。

平成二〇年三月

焼津市長 戸本 隆雄

15 調庸の貢進とカツオ付札木簡..... 34

16 駿河国正税帳と益頭郡財政..... 36

17 小川駅と東海道..... 38

第1章 自然

1 高草山の成り立ち―海底からの隆起..... 6

2 古志太湾の出現と志太平洋の生い立ち..... 8

3 断崖絶壁の岩石海岸となだらかな砂礫海岸..... 10

4 焼津の動物..... 12

5 焼津の植物..... 14

6 焼津の魚介類..... 16

第2章 原始・古代

7 農耕のはじまり..... 18

8 古墳の出現と展開..... 20

9 古墳時代の集落と耕地..... 22

10 群集墳の広がり..... 24

11 副葬品あれこれ..... 26

12 ヤマトタケル伝承と焼津..... 28

13 古代の氏族と国造..... 30

14 益頭郡の成立と郡家..... 32

第3章 中世

18 益頭庄と方上御厨..... 40

19 益頭庄地頭北条時政..... 42

20 守護今川氏と焼津..... 44

21 小川湊の繁栄..... 46

22 法永長者にかかわる人々..... 48

23 戦国大名今川氏と焼津..... 50

24 花沢城の落城と当日合戦..... 52

25 家康の五カ国支配..... 54

26 総検地と小田原攻め..... 56

27 有徳人の館・小川城..... 58

28 多彩な器物が物語る館の暮らし..... 60

第4章 近世

29 中村氏支配下の焼津..... 62

30 太閤検地と横田村詮法度..... 64

31 近世焼津の領主たち..... 66

32 幕領と藩領..... 68

33 近世初期の検地..... 70

34 大覚寺村の検地..... 72

35 新田開発と請所新田..... 74

36 年貢とその推移..... 76

37 村役人と村政..... 78

38 入会地相論の展開..... 80

39 山野相論の展開..... 82

40 用水の普請と相論..... 84

41 東海道と焼津の村々..... 86

42 近世の漁業..... 88

43 海運と海難..... 90

44 村の出来事..... 92

45 ムラとイエ..... 94

46 近世人の一生..... 96

47 近世焼津の文化..... 98

第5章 近代

48 町村制の実施―旧村から新町村へ..... 100

49 地租改正と地価修正..... 102

50 近代学校の成立..... 104

51 鉄道敷設―焼津藤枝間軌道線・東海道線..... 106

第6章 現代

70 焼津の農地改革..... 144

71 地方自治制度―焼津の市制成立..... 146

69 戦争犠牲者..... 142

68 海軍航空隊藤枝基地と軍徴用焼津漁船..... 140

67 学童集団疎開と学徒労働員..... 138

66 戦時下の経済統制..... 136

65 近代焼津の文化..... 134

64 缶詰産業の形成―マグロとミカン..... 132

63 昭和恐慌期の農漁村の状況..... 130

62 昭和恐慌期の地方自治..... 128

61 焼津の金融活動..... 126

60 大正期の農業と農家経営..... 124

59 水産業の発展―沖合漁業・沿岸漁業..... 122

58 大正デモクラシー下の教育..... 120

57 大正デモクラシー期の地方自治..... 118

56 焼津町の米騒動..... 116

55 小泉八雲の焼津..... 114

54 農業の発展..... 112

53 水産業の組織化と漁船の動力化..... 110

52 日清・日露戦争の日々..... 108

72	戦後の教育改革……………	148
73	第五福竜丸事件と原水爆禁止運動……………	150
74	マリアナ海域の漁船大量遭難……………	152
75	カツオ・マグロ漁業の変貌と水産加工業……………	154
76	大量生産大量消費の時代……………	156
77	焼津市のベッドタウン化……………	158
78	総合開発計画の展開……………	160
79	ものづくり焼津の文化施設……………	162

第7章 民俗

80	海蔵寺ものがたり……………	164
81	焼津神社の荒祭り……………	166
82	絵馬に込めた願い……………	170
83	海・里・山の年中行事……………	172
84	暮らしのなかの石造物……………	174
85	恵まれた海の幸……………	176
86	焼津の伝説……………	178
87	山のなりわい……………	180
88	平野のなりわい……………	182
89	地先と川の漁具・漁法……………	184
90	港周辺の産業……………	186
91	カツオ一本釣漁船……………	188

〈図説・年表の表記について〉

- ・本文の記述は原則として常用漢字・現代仮名遣いを使用した。ただし、固有名詞や特殊な用語については、必ずしもこの原則によらなかった。
- ・本文中の人名の敬称は、すべて省略した。
- ・年号は西暦を用い、必要に応じて日本年号を（ ）で示した。
- ・本文中の焼津市内の地名については、基本的には現在の住居表示にならないふりがなを付した。
- ・市（国・県）指定文化財については、市（国・県）指定と省略した場合が多い。
- ・城之腰・北浜通（旧北新田）・鯛ヶ島については、歴史的経緯を考慮して便宜上「焼津湊三ヶ村」という総称、もしくは「浜通り」という通称を用いたところがある。
- ・本文の叙述には多くの研究成果を援用したが、本書の性質上、典拠を省略した場合が多い。
- ・掲載資料の所蔵者・提供者・撮影者については、巻末の一覧に記した。図・表の出版についてはそれぞれの説明文のなかに記した。
- ・一部、本文中の表現や引用した資料のなかに差別的な用語が使用されている場合がある。もとよりこうした不当な差別を容認するものではなく、差別根絶の立場からその事実を認識する意味で叙述・掲載をした。

92	鯉節製造技術の発達と職人の交流……………	190
93	思い出の水揚げ風景……………	192

第8章 文化財

94	焼津の神社……………	194
95	焼津の神社建築・民家・石造物……………	196
96	焼津の寺院……………	198
97	焼津の寺院建築……………	200
98	焼津の彫刻・絵画……………	202
99	焼津の工芸品・書跡・歴史資料……………	204
100	無形文化財・無形民俗文化財・天然記念物……………	206
●	昭和30年代 焼津 あのころの記憶……………	208
●	焼津市周辺地図……………	210
	あとがき……………	212
	執筆分担……………	213
	掲載資料の所蔵者・提供者・撮影者一覧……………	214
	協力者一覧……………	216
	焼津市史編さん関係者名簿……………	217
	焼津市歴史年表……………	1

焼津市歴史年表

<年表の表記について>

- この年表は『焼津市史』通史編上巻・下巻および漁業編をもとに焼津市内の主要な事項をおさめた。
- 記事は、市内と市外とに分けて記述した。
- 日本年号について、改元のあった年は新しい年号で記した。南北朝期の年号は、「北朝年号・南朝年号」の順で併記した。
- 月日は、たとえば1月1日ならば 1.1と表記した。閏月は丸数字で記した。記事の月が確定できない場合はこの年、この頃などと表記した。
- 年月日は1872年（明治5）までは旧暦を用い、それ以降は太陽暦とした。
- とくに近代・現代では略称を多用した。
- 記事の末尾には、『焼津市史』の出典を表記した。
 - 通史編の場合、巻数の後に該当する頁数を示した。たとえば上巻の123頁であれば㉑123というように記した。
 - 漁業編の場合、該当する頁数を示した。たとえば456頁であれば㉑456というように記した。また、該当頁数を示していないところは、巻末の漁業関係年表を参考にしたものである。
 - 資料編の場合、巻数の後に該当する頁数または資料番号を示した。たとえば資料編1の234頁であれば㉑234と、資料編3の資料番号321であれば㉑321号というように記した。
- 作成にあたって『焼津市史』のほか、『焼津市誌』上巻、『静岡県史』通史編7、岩波書店『日本史年表（第四版）』、『近代日本総合年表（第三版）』を参考にした。

絶対年代	地質年代	市内(志太・益津地域)	市外
19～1600万年前	新第三紀 中新世 前期末～ 中期初	それまで続いた海底に大量の溶岩が噴出。溶岩の質はこの時代、太平洋岸では珍しいアルカリ玄武岩。㉑53～55	温暖気候(亜熱帯)が日本全体を包む。県西部の豊岡・森・掛川は遠浅海岸、その背後は陸地化。
500万年前以降	新第三紀 鮮新世	海底から隆起、高草山の萌芽を形成。㉑56	南アルプスの隆起が加速、河川(天竜川・大井川など)は山を侵蝕して大量の礫を選び、下流に堆積(小笠山の礫層)。㉑58
100万年前ころ	第四紀 更新世 中期		大井川が現牧の原台地付近を流れて扇状地を形成。㉑58
13万年前ころ	考古年代 第四紀 更新世 後期	海面が現在より約130m低下し、大井川・瀬戸川などは川筋に深い谷を形成。㉑59	寒冷期(ウルム氷期Ⅱ)に入って陸上に氷河が発達し、全世界の海面が低下。㉑59
2万年前	旧石器時代		
1万1000～6000年前以降	縄文時代	海水が浸入し、広い溺れ谷(入江)を形成(縄文海進、古志太湾の出現)。㉑60 海水面はほぼ安定して古志太湾は流入河川の土砂進出時代に入る。大井川からの土砂はとくに目立ち、古墳時代に黒石川の北側にまで及んだ。のみならず海岸に進出し砂礫海岸を形成。瀬戸川・朝比奈川は遅れて進出(自然堤防の形で)を開始。㉑62・63 浜当日以北の高草山山麓は新たな海岸線で波の攻撃を受けて巨大な急崖(大崩)を形成。㉑67	日本列島で土器の使用が始まる。 温暖期に入り氷河が融けて世界の海水位が上昇、現在の水位まで到達。
	西暦	考古年代	
紀元前後		前期	北部九州に稲作が伝来し、弥生文化が成立。この頃 日本は百余国に分かれる。
紀元前1～2世紀		中期	
紀元57		中期～後期	清水遺跡に集落が形成され、稲作が行われる。㉑144
2世紀		弥生時代	倭の奴国王が後漢の光武帝より金印を授けられる。 この頃 倭国大いに乱れる。 日本列島は邪馬台国の女王卑弥呼を倭国王として共立する30ヶ国の連合体へ統合される。㉑200
2～3世紀		後期	この頃 黒石川以南の大半は陸化する。㉑64 小深田西遺跡に集落が形成される。㉑150
239			
3～4世紀			卑弥呼、魏に使者を送る。 日本列島各地で古墳の築造が開始される。
4～5世紀		前期	小深田遺跡に集落が形成され、道場田・小川城遺跡、小深田西遺跡に方形墳墓群が営まれる。㉑150・165・174 前期の終わりから中期にかけて、丘陵地帯に特徴的な小型墳が多く築かれる(藤枝市若王子古墳群など)。㉑148
421		古墳時代	倭王讃、中国南朝に朝貢する。
		中期	大覚寺遺跡に集落が形成される。㉑112 伝仁徳陵などの巨大前方後円墳が築かれる。
478			倭王武、中国南朝に上表文を送る。 この頃 [雄略] ヤマト王権は、西は熊本、東は関東地方までを支配領域とする。㉑201

西暦	考古年代	市内(志太・益津地域)	市外
5～6世紀	中期～後期	宮之腰遺跡や道下遺跡で集落が形成され、堅穴住居に造り付け竈が採用される。①126・138	仏教伝来するという。
538	古墳時代	藤枝市莊館山1・2号墳などの前方後円墳が築かれる。①169	
6～7世紀	後期	奥屋敷1号墳(猪之谷神社古墳)に鈴鏡が副葬される。①96 兎沢古墳群、笛吹段古墳群など、高草山の丘陵地帯に多くの群集墳が営まれる。①174、①30・56 低地部に塩津古墳群が営まれる。①118	
西暦	日本年号		
603			12 冠位十二階を定める。
646	大化2		1.1 大化の改新の詔を発令する。
672	天武1		7 壬申の乱起こる。
680	天武9		7 駿河国から伊豆国を分ける。①239
7世紀		赤塚遺跡に集落が形成される。①147	
701	大宝1	この頃 小川駅が設置。①293、②古49・53号	3 大宝令を施行。①242
710	和銅3		3.10 平城京に遷都。
712	和銅5		この年『古事記』が編纂される。
717	養老1 (霊亀3)		この年 霊亀三年式により里制変更。①254 調の付加税としての染料・油・布が廃止され、中男作物に品目が継承される。①262、②古47号
720	養老4		この年『日本書紀』が編纂される。 この頃 花坂古窯や助宗古窯跡群で壺Gが作られる。①270
737	天平9	この頃 伝染病や飢饉により多くの死者が出る。①253、②古20・21号	この年 天然痘の治療対策を指示。①254
738	天平10	天平9年度の「駿河国正税帳」に益頭郡の記載がみえる。①246、②古20号	
739	天平11	天平10年度の「駿河国正税帳」に益頭郡・志太郡の記載がみえる。①246、②古21号	
740	天平12		この頃 郷里制の里・戸が廃止され、郡郷制となる。①255
746	天平18	木簡に記された「荒堅魚」の用字が、この年より「庵堅魚」に変化。①268	
747	天平19	9.26 駿河国益頭郡の50戸が東大寺の食封となる。①308、②古22号 この頃 法華寺創建という。①929	
749	天平勝宝1		8 藤原仲麻呂が光明子の信任を得て、皇太后宮職長官となる。①276・277
754	天平勝宝6	10 駿河国志太郡から布乃理が貢進される。①262、②古23号	
757	天平宝字1	8.18 駿河国益頭郡の白丁金刺舎人麻白が、蚕の書いたためたい文字を献上。これを祥瑞とし、天平勝宝から天平宝字へ改元。①276、②古25・26号	7 橘奈良麻呂の乱起こる。
758	天平宝字2		3 大井川の川辺の砂の中から掘り出された木像が靈験を示す。①297、②古27号
759	天平宝字3	『万葉集』で「焼津辺」、「志太の浦」等の地名が詠まれる。①296・326、②古28～31号	
763	天平宝字7	1 東遊の駿河舞歌に「いはたしたえ」と「遠目」の地名がみえる。①328	
779	宝亀10		11.15 7月14日の豪雨により決壊した堤防修復のために、駿河国が人夫の動員を上申。①298、②古33号
794	延暦13		10 平安京に遷都。
815	弘仁6	この年 香信楽寺(現香集寺)創建されるという。①933、①742、③518号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
835	承和2		6.29 水害対策として、富士川に浮橋を、大井川・安倍川に渡船を設置。①300、②古35号
	平安初期		この頃 神階授与がしばしば行われる。①298・307・319、②古36～39号
878	元慶2		6.21 出羽国の擾乱のため、駿河国で兵士を徴発。①307、②古40号
890	寛平2	この年「尾張国熱田太神宮縁起」に「益頭」の郡名は「焼津」からの転訛と記載される。①220	
914	延喜14		8.15 太政官厨家に関する雑事五箇条で、諸国の例進地子雑物が定められる。駿河では鱈製品がみえる。①307、②古43・44号
927	延長5	この年 焼津神社と那閉神社が「延喜式神名帳」に記載。①316、②古45号	この年 延喜式で、駿河国は中国と記される。②古46号 この頃 駿河国は調庸として鱈製品を納める。①307、②古47号
935	承平5		2 平将門の乱起こる。
940	天慶3		この年 駿河国の在庁官人菅原広統、平将門追討軍に従う。①307、②古55号
	天曆年中		この頃『伊勢物語』の主人公在原業平が、宇津の山を通りかかる。①305、②古59号
954	天曆8	この年 益頭郡司伴成正が殺害される。このころ、国司や郡司が在地勢力や武装集団に襲撃される事件が頻発する。①307、②古58号	この頃 皿山窯(菊川市)、旗指窯(島田市)が生産を開始し、大量の灰陶器を搬出する。①274
956	天曆10		この年 駿河国司・郡司・雑人らの武装が許可される。①307、②古58号
995	長徳1	この年 源重之が「しだの浦」を『重之集』の歌に詠む。①328、②古62号	
1059	康平2		この頃 菅原孝標女が、大井川の様子を『更級日記』に記す。①297、②古64号
1081	永保1	この年 伊勢神宮外宮領小楊津御厨が成立。①345、②古68・中4号	
1096	永長1 嘉承年間	方上御厨が成立する。①348、②古68・中4号	11.24 駿河国に大地震が起こる。②古67号
1128	大治3		8 円勝寺領質侶庄が立荘する。①297・353、②古71号
1129	大治4	12.2 方上御厨の神人と在庁官人とが争い、方上御厨は伊勢神宮領となる。①325、②古68・73号	
1130	大治5	11.22 待賢門院が駿河荘(益頭荘)を立荘。①352、②古74号	
1148	久安4		この頃 東大寺封戸の税物の未納が問題となる。①314
1177	治承1	7.2 小川尻の堂僧弁慶、大般若経を校正する。②古79号	
1180	治承4		5 平家追討のため、源頼政が以仁王を奉じて挙兵。8.17 源頼朝、伊豆に挙兵。①337、②4 平清盛没。
1181	養和1		2 平氏一門滅亡する。
1182	寿永1	8 益頭庄の預所大膳大夫平信業没。①339	
1185	文治1	この頃 北条時政、益頭庄の地頭となる。①339	
1186	文治2	⑦.28 源頼朝、方上御厨を伊勢神宮に寄進。①348、②中1号	
1187	文治3	9.20 益頭庄が関東御領となる。①354、②中2号 この頃 北条時政、益頭庄の預所に一条能保を補任しようとする。①339・356、②中2・3号	7.12 源頼朝、征夷大将軍となる。
1192	建久3		
1193	建久4	この年 伊勢神宮領目録『神風鈔』に、方上御厨や小楊津御厨などがみえる。①344、②中5号	
1203	建仁3	3 方上御厨の地頭職が伊勢神宮に寄進される。①350、②中6号	
1209	承元3	11.8 北条義時、益頭庄の年貢を鎌倉鶴岡八幡宮の常灯料として寄進。①357、②中7号	
1221	承久3		5 承久の乱起こる。
1274	文永11		10 蒙古襲来(文永の役)
1281	弘安4		6 蒙古再度襲来(弘安の役)

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1285	弘安 8	9.18 方上御厨内沽却地が、「神領興行法」で社家の進止となる。①350, ②中 8 号	この頃 横岡窯(島田市)の山茶碗生産が終了。
1304	嘉元 2	2.9 熊野那智山御師寂門坊が、小河一門などの檀那職を証道房に譲る。①364, ②中 9 号	
1305	嘉元 3	この年 天台宗安養寺(現海蔵寺)が、遊行寺上人の勸化で時宗に改宗。①927・934	
1315	正和 4	9.10 幕府、三嶋大社神主伊豆厚盛の所領、駿河良知郷などを安堵。②中10号	
1324	正中 1	この年 天台宗普門寺が、遊行寺上人の勸化で時宗に改宗。①927	5 鎌倉幕府滅亡。
1333	正慶 2・元弘 3		
1335	建武 2	7.12 後醍醐天皇、西園寺公重に小楊津御厨などを安堵。②中11号 12.14 摂津親秀、足利尊氏から益頭庄地頭職を拝領。①377, ②中12号	この年 今川範国、駿河守護に補任。①370
1337	建武 4・延元 2		7~10 今川範国、松井八郎助宗らを率いて井伊城・安倍城を攻める。①370 8.11 足利尊氏、征夷大將軍となる。
1338	暦応 1・延元 3		
1339	暦応 2・延元 4	10 伊勢神宮給人引付諸神領注文に、小柳津御厨などがみえる。②中13号	
1341	暦応 4・興国 2	8.7 益頭庄が摂津親秀から阿古丸に譲られ、うち焼津郷のみは後家に譲られる。①378, ②中14号	
1348	貞和 4・正平 3	12.10 足利直義、駿河守護今川範国の知行する中根郷や八楠郷などの正税を免除。①369, ②中15号 この頃 駿河守護今川範国、鎌倉門覚寺に八楠郷を寄進。①370, ②中23・24号	10.26 観応の擾乱起こる。
1350	観応 1・正平 5		
1351	観応 2・正平 6	9.8 足利義詮、駿河守護今川範国に対し、田尻郷南村河原一色地頭職を細川元氏の代官に引き渡すよう命ずる。①385, ②中17号 11.16 伊達景宗らの今川軍、小川より出陣し、駿河府中に討ち入る。①371, ②中18号	
1354	文和 3・正平 9	11.12 後光厳天皇、冷泉為秀に小柳津御厨をあてがう。②中19号 12.7 足利尊氏、駿河守護今川範氏に、小柳津御厨を冷泉為秀の雑掌に引き渡すよう命ずる。②中20号	
1358	延文 3・正平13	この頃 益頭庄は摂津能直の所領となる。①379, ②中22号	
1361	康安 1・正平16	この年 細川元氏失脚し、田尻郷南村河原一色地頭職は没収。①386	この頃 今川泰範、駿河守護に補任。①374
1368	応安 1・正平23		
1375	永和 1・天授 1	この年 幕府、駿河守護今川泰範に、益頭庄へ課せられた役夫工米の催促停止を命ずる。②中25号	
1379	康暦 1・天授 5	6.19 足利義満、益頭庄を守護不入とする。①381, ②中26号 この年 田尻郷南村河原一色地頭職、細川清氏の子正氏に返還。①386	
1381	永徳 1・弘和 1	5.6 細川正氏、田尻郷南村河原一色地頭職を、京都臨川寺に寄進。7月2日に足利義満が安堵。①386, ②中27・28号	
1382	永徳 2・弘和 2	この年 熊野那智山御師の檀那等配分目録に、花沢大進律師がみえる。②中29号	
1384	至徳 1・元中 1	6 田尻南村の西賢、大般若経巻二八〇を書写する。②中30号	
1388	嘉慶 2・元中 5	この年 法永長者長谷川氏、西營上人を開山として、西光寺を建立。①927	この年 足利義満、東国遊覧で駿河に来る。
1392	明德 3・元中 9	この頃 駿河守護今川泰範、摂津能秀に益頭庄についての書状を送る。②中31号	⑩.5 南北朝が統一される。
1394	応永 1	8 永豊寺に雲版奉納。①390・453, ②中32号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1395	応永 2	この年 石川某、田尻郷南村に狼藉を働く。②中33号	11.14 今川了俊、駿河守護に補任。今川泰範分は駿河半国となる。①374
1397	応永 4	4.23 幕府、今川泰範に益頭庄における役夫工米の催促停止を命ずる。①381, ②中34号	
1399	応永 6	6.13 益頭庄と小沼郷の境界付近の湊口をめぐる争いが発生。湊口は益頭庄内とされる。①393, ②中35号 12.13 吉津村に宝篋印塔造立。②中36号	
1400	応永 7	11.13 幕府、今川泰範に益頭庄を摂津幸夜又丸の代官に引き渡すよう命ずる。②中37号	
1401	応永 8	3.10 今川泰範、日代に益頭庄の役夫工米の催促停止を命ずる。①382, ②中38・39号	
1402	応永 9	6 益頭庄内塩津・下当馬・市部が被官人に押妨される。幕府、その地を摂津幸夜又丸の代官に引き渡すよう命ずる。①382, ②中40・41号	
1404	応永11	12.12 臨川寺雑掌が御家人大草氏の所領である田尻郷に濫妨。幕府、摂津満親に雑掌の排除と下地の安堵を命ずる。①386, ②中42号	
1409	応永16	12.5 伊勢神宮神主大中臣清世、一男清基に方上御厨を譲与。①351, ②中43号	
1413	応永20	10.25 初倉庄から小河湊への年貢米の運搬を、狩野七郎左衛門の被官人らが妨害。①396, ②中44号	
1417	応永24	5.22 伊勢神宮神主大中臣清基、嫡子千代市丸に方上御厨を譲与。①351, ②中45号	
1418	応永25	12.21 足利義持、田尻郷を守護不入とする。①387, ②中46号	
1429	永享 1	4.26 足利義教、日野資任に方上御厨などの所領を安堵する。①351, ②中48号	この頃 足利義教、富士遊覧で駿河に来る。
1432	永享 4		
1438	永享10	この年 原川新三郎、元小浜の天台宗宝積寺を石脇下へ移転し、臨濟宗に改宗。①927	
1452	享徳 1	2.6 幕府、摂津之親に益頭庄などを安堵。②中49号 6.18 益頭庄が仁和寺領となる。地頭職は摂津之親が保持。①382, ②中50号 8.30 足利義政、烏丸氏光に方上御厨などを安堵。①351, ②中51号 9.8 幕府、摂津之親の益頭庄領家代官職を安堵する。②中52号	
1458	長祿 2	①.23 小河の道者 4 人、熊野那智山に詣でる。①362, ②中53号 4.5 清水和泉光正、道者職を城南房に売却。檀那に、小河烏帽子屋慶道がみえる。①365・399, ②中54号	
1460	寛正 1	8.23 摂津之親の家人置塩尾張守、役目を怠り続ける岡田郷の松長男を庄内から追い出すために益頭庄に下向。①382, ②中55号	
1461	寛正 2	3.14 熊野那智山御師周讚、方上御厨12村の檀那を売却する。②中56号	5 応仁の乱起こる。
1467	応仁 1 文明年間	この頃 伊勢盛時(早雲)が石脇城に居住する。①402, ②中88号	
1471	文明 3	この年 長谷川正宣、賢仲繁哲を招いて曹洞宗林叟院を建立する。①928, ①701・755	
1473	文明 5	8.26 招月庵正広、小川へ来る。①382, ②中57号	
1476	文明 8	この年 小川の法永長者、竜王丸をかくまう。②中58・59号	この年 今川義忠死去。竜王丸と小鹿範満との間で家督争いが起こる。①402
1478	文明10	8 仁和寺の当知行所領目録に、益頭庄がみえる。②中60号	
1481	文明13	8.25 田尻郷を担保としていた大草公友の債務が破棄される。②中61号	
1485	文明17	9.19 万里集九、小川湊に宿泊。湊の様子を記す。①397, ②中62号	
1486	文明18		7 範満方の太田道灌、謀殺される。①407

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1487	長享1	6.26 熊野那智山御師橋瓜坊良濟、駿河国長谷川一族檀那を売却する。②中63号 10.15 北野天満宮寺領目録に、田尻郷南河原一色がみえる。②中64号 この頃 鈴木次郎左衛門重克、伊勢盛時(早雲)より入江大明神の祠官を命ぜられたという。①906	7 伊勢盛時(早雲)、竜王丸派を集めて小鹿範満を討つ。①408・412
1491	延徳3	5.6 幕府、駿河守護今川竜王丸に、田尻郷南村河原一色を北野天満宮の雑掌に引き渡すよう命ずる。②中65号 5 石脇村の者たちが、原川氏に原川浅間宮の氏子入りを願い、承諾される。①910	4 明応の政変起こる。この年 伊勢盛時(早雲)、伊豆へ侵攻。①403 この年 今川氏親、遠江へ侵攻。①413
1492	明応1	6 池田彦左衛門尉宗家、小川に上行寺を建立する。①399、②中66号	
1493	明応2		
1494	明応3		
1497	明応6	この年 異相の老人の忠告で、林叟院が寺を移転したといわれる。①445・928	
1498	明応7	7.28 今川氏親、薬科中務丞に益頭庄岡田郷などをあてがう。②中67号 8.25 明応の大地震が起こり、津波で小川の上行寺が流失。①400、②中68～71号 この年 観音祐崇が小川に立ち寄り、地震の被害者を弔うために教念寺を建立。①454 この年 漁夫が城之腰沖で地藏尊の木像をすくい上げ、安養寺に遷す。寺は海蔵寺と改称。①934	
1500	明応9		
1502	文亀2	6 伊勢神宮御師恵順、石津・中根などの道者を売却。②中74号	
1510	永正7	4.21 林叟院住職賢仲繁哲、臘之次第を記す。②中75号	
1516	永正13	7.1 法永長者没。10月12日に連歌師宗長、法永長者追悼百韻を詠む。①420、②中77号	
1521	大永1	9.6 熊野那智山御師橋瓜坊良政、駿河国長谷川名字分一門の檀那を売却。②中78号	
1526	大永6	2.11 連歌師宗長が小川の長谷川元長のもとに立ち寄り、千句の連歌会を興行。①422、②中79・80号 6.23 今川氏親没。 7.2 今川氏親の葬儀が増善寺で行われ、林叟院住職兆山岱朕が六導師のひとりを務める。②中82号 7 小川の西光寺住職尊誉と教念寺住職念誉が、香衣を勅許される。①454、②中83～85号 この年 長谷川元長、熊野三社を小川村に祀るといふ。①366	4.14 今川氏親が「仮名目録」を制定。①413、②中81号
1529	享祿2	6 長谷川長重、弘徳院に雲版を奉納。②中86号	
1531	享祿4	1 志太山の山札が交付される。②中87号	
1533	天文2	8.13 冷泉為和、歌集のなかに元所領であった小柳津などのことを書き付ける。②中89号	
1535	天文4	2.13 冷泉為和、歌集のなかに再び元所領であった小柳津などのことを書き付ける。②中90号 この年 真言宗貞善院、曹洞宗に改宗。	
1536	天文5	11.3 今川義元、岡部親綱に小柳津真金名をあてがう。②中91号 この頃 岡部親綱、方上城を攻める。	4 花蔵の乱起こる。①429
1539	天文8	12.14 今川義元、駿府浅間宮神主村岡宮千代に、神役を滞納する八楠郷などに催促を加えるよう命ずる。②中92号	
1548	天文17		この年 今川義元、臨濟寺(静岡市)を建立。①418・452
1549	天文18	8.11 駿府浅間宮の流鏝馬役負担の郷に、八楠郷などがみえる。①436、②中93号	この年 フランシスコ・ザビエル、キリスト教を伝える。
1551	天文20	7.15 今川義元、駿府臨濟寺に益頭庄保福島の年貢米、当日の公事塩を寄進。①418、①414、②中94号	
1555	弘治1	この年 臨濟寺塔頭・末寺帳に、小川の香藉寺・永豊寺・資福寺がみえる。①452、②中95号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1558	永祿1	8.13 今川氏真が安堵した駿府浅間宮の流鏝馬役負担郷に、八楠郷などがみえる。①437、②中96号	
1560	永祿3	この年 今川義元・氏真、清水湊の廻船業者と思われる藤次郎に湊役などを安堵。この文書に小河・石津の湊がみえる。①396、②中97・98号	
1561	永祿4	6.11 今川氏真、入江大明神の神社修理費を、神領の百姓に負担させる。①415・906、②中99号	
1562	永祿5	この頃 歌人相玉長伝、花沢の寺を訪れて歌を詠む。②中100号	
1564	永祿7	2 建徳寺で催された般若会の大檀那に、長谷川能長の名がみえる。②中101号	
1565	永祿8	7 焼津の長谷川七郎衛門ら、白山の桜井家に宿泊契約状を提出。②中102・103号	
1567	永祿10	この年 臨濟宗光源寺(現成道寺)、曹洞宗に改宗。①928、①773	
1568	永祿11		12 武田信玄が駿河に、徳川家康が遠江に侵攻。①456
1569	永祿12	1.17 武田信玄、青島五郎兵衛尉に大覚寺などをあてがう。①465、②中104号 1.18 駿府臨濟寺領書立に、保福島などがみえる。②中105号 1.26 今川氏真、四宮泰雄に小田村や小川の大夫などをあてがう。②中106号 4.13 武田信玄、岡部雅楽助に越後島などをあてがう。②中107号	5.15 今川氏滅亡する。①457・478 12 武田信玄、再び駿河へ侵攻。①457 この頃 小川城が焼失。
1570	元亀1	1 武田信玄、大原資良らが立籠もる花沢城を攻める。①434・458、②中108号 1.27 武田信玄、土屋左衛門尉に田尻の内などをあてがう。②中109号 2.5 大原資良、鈴木源六の花沢城での戦功に対し感状を与える。①460、②中110号 2.9 武田信君、興津左近之助に小柳津などをあてがう。②中111号 12.4 武田家、某に八楠郷内八十貫文の地をあてがう。②中112号	この年 武田信玄、徳一色城に入城し、田中城と改称。①463 この頃 長谷川正長、徳一色城に立籠もる。
1572	元亀3	1.10 武田家、海野弥兵衛尉に八楠の内などをあてがう。①467、②中114号 2 林叟院住職哉応宋咄、弟子寄堂全林に血脈を与える。同じ頃に大乘菩薩戒文を与える。②中115・116号 9.2 武田家、向井伊賀守に花沢山などでの竹木伐採を許可する。②中117号	12.22 三方原の合戦。
1573	天正1	10.1 武田勝頼、小浜景隆に小柳津の内・小川の内などをあてがう。②中118号 10.21 武田家、神尾左近丞に保福島の内などをあてがう。②中119号 この年 永豊寺、曹洞宗に改宗。①928 林叟院、諸堂を全焼する。①938	4.12 武田信玄没。 5 徳川家康、駿河に侵攻。①468
1574	天正2	この頃 香信楽寺(香集寺)、曹洞宗に改宗。①928 ①11 武田家、深山宗三に良知郷の内をあてがう。②中120号	
1575	天正3		
1576	天正4	8.5 朝比奈信置、井手伝衛門尉に方上の内などをあてがう。②中121号 8.14 武田勝頼、土屋左衛門尉に田尻の内などを安堵。②中122号	5.21 長篠の合戦。
1578	天正6	この頃 若宮八幡宮創建されるという。①730	
1579	天正7	9.5 徳川家康、朝比奈泰勝に小田村や良知郷などをあてがう。①473、②中123号 9.19 徳川家康、当日より用宗城を攻撃する。①471、②中124号 10.16 武田勝頼、向井兵庫助に小河の内や中根の内などを安堵。①472、②中125号 10.25 武田家、海野弥兵衛尉に八楠の内などを安堵。②中126号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1580	天正 8	5 徳川勢と朝比奈勢が、当日で合戦する(当日合戦)。①473 8.28 朝比奈信置,原川新三郎に文衛門屋敷などを与える。②中127号 12.19 武田勝頼,御宿若丸に父監物友綱の譲りに任せて,焼津などを安堵。②中128号	
1581	天正 9	6.23 朝比奈信置,藤五郎に方上の内吉津方などを,八郎らに方上の定夫などを安堵。②中130・131号 10.13 岡部俊具,越後島百姓彦左衛門尉の名職を安堵。②中132・133号 この年 香集寺,武田の兵火にかかり全焼。①933	
1582	天正10	2.21 徳川家康,当日郷に軍勢の乱暴を禁ずる旨の朱印状を下す。①478,②中134号 2.21 松平家忠,敗走する武田軍を追って当日を越え,用宗に陣を取る。②中135号 8.18 徳川家康,穴山勝千代に,駿河国山西の旧領を安堵。①484,②中140号 11.26 徳川家康,三浦元成に方上の内などをあてがう。①485,②中141号	3.11 武田氏滅亡する。 3.29 徳川家康,織田信長より駿河国を与えられる。①480,②中136号 4.14 織田信長,安土へ凱旋の帰途,家康の領国を通る。①481,②中137号 6.2 本能寺の変起こる。 7 徳川家康,甲府に入る。①482,②中138号
1584	天正12	8.26 益頭郡の6カ郷に対し,坂本貞次・駒井勝盛連署状が出される。①487,②中142号	3 小牧・長久手の合戦はじまる。
1585	天正13		7.11 羽柴秀吉,従一位関白に叙任。
1586	天正14		12.4 徳川家康,駿府城へ移る。①490
1589	天正17	5.28 西郷久尚,原川新三郎に谷の屋敷を返す。②中143号 7.7 徳川家康,市域の郷村に七カ条定書を交付。①492,②中144~149号 11.24 徳川家の長谷川長綱等,松平九郎右衛門に良知郷の内などを与える。①496,②中150号	2 徳川氏の五カ国総検地始まる。①490
1590	天正18	2.20 徳川家伊奈忠次,朝比奈泰勝に良知郷の内などを与える。①496,②中152号 2.11 井伊直孝,駿河国益津郡中里村で生まれる。①913 3.18 豊臣秀吉,駿河に入り田中に至る。②中153号	1 豊臣秀吉,駿河国に禁制を下す。①501,②中151号 7 北条氏滅亡する。徳川家康,関東に転封し,江戸城に入る。①501 この年 中村一氏が駿府城に入り,田中城に横田村詮を置く。①553 中村氏,駿河検地を行う。①563・608,③1・2号
1599	慶長 4	6~9 横田村詮法度が交付(石脇村・方上良知家宛など)。①570,③45号	この年 中村氏,駿河一国の検地を行う(太閤検地)。①563・608
1600	慶長 5		2.20 横田村詮,岡部新宿の条規を定める。①559 9.15 関ヶ原の合戦。 この年 中村忠一,伯耆米子へ転封。①579
1601	慶長 6		1 徳川家康,東海道の宿駅を設置。①560
1602	慶長 7	10.10 石脇郷に免合定書が出される。①579,③132号 12.10 徳川家康,焼津神社に朱印高70石を与える。①907,③476号	
1603	慶長 8		2.12 徳川家康,将軍となり,幕府開設。
1604	慶長 9	7~ 坂本村・方ノ上村・当日村・吉津村・野秋村・小浜村・大覚寺村・小屋敷村・策牛村・城之腰村などで検地施行。①612 この年 大井川洪水。①643 この年 天台宗法昌寺,曹洞宗に改宗。①928	この年 遠江国・三河国で,一国の総検地施行(辰の御縄)。①610 大井川洪水で島田宿が押し流され,1615年までの間,元島田の地に宿駅機能が移る。①645
1605	慶長10		この年 琉球王国,薩摩島津氏によって征服される。①866 彦坂光正,駿府町奉行となる。徳川頼宣,駿府藩主となる。①584
1609	慶長14		
1614	慶長19	4 彦坂光正,柳津浦でこの年初めてとれた生鱈2箇を家康に献上。①843,③17・423 この年 彦坂光正,一色村宛年貢割付状を発給。①584	10 大坂冬の陣起こる。
1615	元和 1		5 大坂夏の陣。豊臣氏滅亡する。
1617	元和 3	この年 法嗣擔叟玄泉,香集寺を再興。①933	
1619	元和 5	この年 一色村新田成立する。①643	7.19 徳川頼宣,紀伊和歌山へ転封。駿河は幕領となり,代官は村上吉正。①584
1625	寛永 2	3.19 杉之谷山相論起こる。①795,③273号 5.13 香集寺石灯籠,造立。①704・794	1.11 徳川忠長,駿府藩主となる。①584

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1629	寛永 6	5 井伊直孝,若宮八幡宮を再興。①911,③730・843	
1631	寛永 8		5.18 徳川忠長,甲斐へ謁居。①584
1632	寛永 9		10.23 長崎元通,駿府町奉行就任。 10 徳川忠長領は解体し,駿河の大半は幕領となる。①584
1633	寛永10	8.9 松平忠重,田中藩主となる。①584	2.26 大久保忠成,駿府城代に就任。①587 この年 幕府,水野忠善に命じて大井川の千貫堤を築かせる。①645 この年より 琉球王国から慶賀使,謝恩使が江戸に派遣される。①866
1634	寛永11		6 参勤交代が制度化される。
1635	寛永12	8.4 松平忠重,遠江国掛川へ転封。水野忠善,田中藩主となる。①585 11.25 城之腰村で所持する「あま舟」に「舟年貢」が,新造船に「新舟年貢」が,漁獲高に対しては十分の一運上の納入が義務付けられる。①841,③142号	
1636	寛永13		この年以降 東海道宿の常備人馬が,人足100人・伝馬100疋に強化。①704
1637	寛永14		10 島原の乱起こる。 この年 助馬令が出される。①705
1639	寛永16	この年 大覚寺村で検地施行。①625・630,③29・31号	7.4 鎖国が完成する。
1642	寛永19	7.28 水野忠善,三河国吉田へ転封。①585 9.12 松平忠晴,田中藩主となる。①585・588 この年「覚書」に田中領の産物として,みっかん・くねんぼ・きんかん・かつほふし・おきつたい等が見える。①846 この年より 益津郡・志太郡の幕領が拡大する。①589	この年 田畑永代売買が禁止される。
1643	寛永20		
1644	正保 1	3.18 北条氏重,田中藩主となる。①585 この年 大覚寺村で検地施行。①635	
1648	寛永年間 慶安 1	7.17 徳川家光,林叟院に寺領7石を安堵。①937,③506号 8.17 徳川家光,香集寺に寺領2石を安堵。①933,③515号	この頃 五人組制度はじまる。
1649	慶安 2	2.11 西尾忠昭(忠照),田中藩主となる。①585	この年 由比正雪の乱起こる。
1654	承応 3	12.22 西尾忠成,田中藩主襲封に際し5000石を叔父忠知に分知する。①585	
1655	明暦 1	11.17 城之腰村・鱒ヶ島村・新屋村の3カ村と東片浜5カ村との間に相論が起こる。①840	
1662	寛文 2	この年 大覚寺村で検地施行。①635,③29号	
1665	寛文 5		7.11 諸宗寺院法度が制定される。①928
1666	寛文 6	4 杉之谷山の相論が再燃。①797,③279号 この年 石津村で検地施行。①635,③35号	この年 幕領宿駅における定助村々を設置。①705
1667	寛文 7	5 西尾忠知,13日に香集寺,24日に海蔵寺,各々に絵馬を奉納。①707・810・812	
1669	寛文 9	この年 関方村など8カ村,丸子町助馬村に指定される。①716,③223号 田尻村で検地施行。①635,③34号	7.27 松平乗真,駿府城代に就任。①716
1670	寛文10	2 丸子町助馬免除訴訟起こる。①716,③223~225号	
1671	寛文11	この年 酒造の禁令が出される。①855,③344号	
1672	寛文12	12 治兵衛長次右衛門請所新田の開発が始まる。①645,③5号 この年 策牛村で検地施行。①635	この年 河村瑞賢,西廻り航路を開発し,東北・北陸と大坂を結ぶ。①826
1673	延宝 1	この年 上小田村で検地施行。①635,③40号	
1674	延宝 2	2.13 法華寺が東叡山寛永寺の直末寺となる。①930,③521・522号 この年 請所新田,洪水で川成(荒田)となる。以降,1676年まで連年川成に。①649,③9号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1675	延宝3	④.14 城之腰・鯛ヶ島・北新田・新屋の4ヵ村と片浜9ヵ村との間で漁猟相論が起こる.①839,③302号	この年 西尾忠知没.①585
1677	延宝5	この年 請所新田,最初の年貢を上納.①648	
1678	延宝6	この年 田尻村で検地施行.①635	
1679	延宝7	9.6 西尾忠成,信濃国小諸に転封,酒井忠能,田中藩主となる.①585・592	
1680	延宝8	5.25 香集寺,全堂を焼失する.①933 8.6 請所新田,洪水等で被害を受け,年貢上納の延年を出願.①650,③9号 9.15 坂本村「五人組改帳」の中に賭博禁止の項目がみえる.①852,③57号	この頃 土佐の宇佐浦で鯉節のカビ付け法が発明される.①846,④426
1682	天和2	2.12 土屋政直,田中藩主となる.①593 この年 浜当目村で検地施行.①635 この頃 田尻北村が田中藩領となる.①593	3 西尾忠成,遠州横須賀藩に入封.①708 11.28 沼津代官野村為政が罷免される.①592
1683	天和3	4 浜当目村の惣小百姓70人が,庄屋市太夫らの不正を勘定奉行に訴える.①756・856,④415,③58号 9.21 下小杉村と一色村付近の海面で,駿河と遠江との国境をめぐる相論が起こる.①842,③303号 この年 香集寺虚空蔵堂,再興.①933	
1684	貞享1	7.19 太田資直,田中藩主となる.①593 10 惣右衛門村など15ヵ村の本村部分の支配が,田中藩支配に移行される.①594 この年 請所新田で検地施行.①651	
1685	貞享2	12.25 焼津普門寺の半鐘,元焼津の村松庄兵衛が母の菩提を弔うため寄進する.①836	
1686	貞享3	9.8 焼津入江の新村与兵衛吉利が長福寺に鯉口を奉納(貞善院の鯉口).①835	
1687	貞享4		この年 幕府,町人請負新田の開発を制限する.①658
1688	元禄1	この年 方ノ上村の免切願一件が起きる.①694,③217・218号	
1691	元禄4	9 西尾忠成,海蔵寺に釣灯籠を一對寄進.①708	
1692	元禄5	この年 寛永寺の命により,謀政が法華寺の住職となる.①930	
1693	元禄6	この年 城之腰清水氏,焼津神社へ神鏡8面を奉納し,神輿に付けられる.①907	
1694	元禄7		この年 助郷改革が行われる.①705 松尾芭蕉,島田の塚本如舟宅に滞在.①964 この年 国絵図作成の幕命が出る.①784
1696	元禄9	1 方ノ上村免切願一件が決着する.①694	
1697	元禄10	この年 「本朝食鑑」に興津鯛について記される.①848	
1699	元禄12	この年 法華寺の二十八部衆像,謀政により奉納される.①825	
1700	元禄13	この年 「堀川」が田子の橋から城之腰地先まで掘られる.①826	
1702	元禄15	1.15 林叟院,諸堂を全焼する.①938	
1703	元禄16	11.22 焼津湊船,長津呂湊で津波の被害に遭う.①830,③304号	
1704	宝永1	6 浜当目村が石脇村を相手取って訴訟を起こす(杉之谷山相論).①800,③281号	
1705	宝永2	4.22 内藤式信,田中藩主となる.①593	
1706	宝永3	この年 法華寺再興.①931	
1707	宝永4	10 宝永東海大地震で,成道寺大破.1713年に再建.①740・773	11 富士山噴火,宝永山でできる.
1711	正徳1	この年 朝鮮通信使通行のため,下大覚寺村で人足と馬を負担する.①867 林叟院再建.①938	
1712	正徳2	5.15 土岐頼殷,田中藩主となる. この年 大覚寺村・上小田村・田尻村で検地施行.①635	
1714	正徳4	この年 琉球使節通行のため,下大覚寺村で人足と馬を負担.①866,③31号	
	正徳年間		この頃 新井白石,宿駅政策推進.①706

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1716	享保1	12 花沢山相論起こる.①802,③283号	この年 享保の改革始まる.
1718	享保3	この年 琉球使節通行のため,下大覚寺村で人足・馬・金銀を負担する.①866	この年 木喰上人,甲斐国の古閑村丸畑(山梨県)に生まれる.①712
1719	享保4	この年 朝鮮通信使通行のため,下大覚寺村で人馬代・野菜代を負担.①867	
1720	享保5		この年 国役普請が制度化される.①822
1722	享保7		7.26 江戸日本橋に「新田取立高札」が建てられ,その後代官見立新田が急増.①641
1724	享保9	6 城之腰村・鯛ヶ島村の庄屋・年寄,鯉の取引をめぐって駿府代官所へ口上書を提出.①849 9 法華寺住職豪榮,「法華寺建立記」を記す.③523号	この年 助郷制度が確定.①706・722
1725	享保10		
1730	享保15	7.28 本多正矩,田中藩主となり,本多家で幕末に至る.①594	
1731	享保16	2 坂本山相論起こる.①803,③284~286号 9 田中藩が「御法度書」を示す.①852,③47号 この年 岡当目村・石脇村・成沢村・吉津村・野秋村・浜当目村・八楠村が幕領となる.①596	この年 「駿河国郷村高帳」が作成される.①595・708,③536号
1734	享保19	12 石脇村の一部が,旗本松前広隆の知行地となる.①599	
1735	享保20	5 吉津村の一部が,美濃国岩村藩領となる.①599 10 本多正珍,田中藩主となる.①709	
1737	元文2	この年 「用介懐詠鏡」が田尻村法月満定により作成される.①598 12 本多正珍,絵馬を奉納(弘徳院の絵馬).①709・809	
1742	寛保2	この年 策牛村,島田代官の支配となる.①597	
1745	延享2	この年 「寿月堂句集」発行.①963	
1746	延享3	この年 関方村・三輪村の埋樋相論起こる.①814,③245号	
1749	寛延2	この頃 浜当目村は島田代官辻盛陰の支配となる.①597	
1752	宝暦2	この年 橋立山相論起こる.①805,③290号	
1757	宝暦7	この年 焼津村松氏,焼津神社に猿田彦能面を寄進する.①907	
1758	宝暦8		この年 田沼意次が榛原郡5000石を得て,1万石の大名となる.①601
1765	明和2	この年 花沢村で毒荏原相論起こる.①861,③294号	
1766	明和3	11 本多正珍,海蔵寺に仏説延命地藏菩薩経を奉納.①710	
1768	明和5	この年 二十世心牛祖印師が林叟院の経蔵の建立を発願.①748	
1773	安永2		この年 木喰上人,日本全国を巡る旅を始める.①713
1775	安永4	この年 本多正供,海蔵寺の御戸帳を奉納.①844,③497号	
1777	安永6	4.21 相良藩主田沼意次の新領に,旧田中藩領が宛てられる.①600	
1778	安永7	4 焼津湊3ヵ村の漁師24人が,漁猟運上として27両2分を請負う.①842,③305号 この年 成沢村などの8ヵ村を,田中藩領に編入.①597・602 城之腰村「御菜場」に番所を設け,商人・仲買人立会いの上で売買することになる.①850	
1779	安永8	4 花沢川悪水路相論起こる.①818,③220・253号	
1780	安永9	この年 保福島の大井神社本殿,田中藩主本多家の庇護のもと建立.①704・725	
1782	天明2	10.8 坂本村弥七,北新田勘七から酒造株を譲り受ける.翌年,三ヶ名村久次郎から酒名代を買い取る.①855,③349・350号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1786	天明 6	12 花沢村善蔵、法華寺に毒荏原を譲り渡す。①864、③351号 この年 相良藩領として、大嶋村等15カ村の名がみえる。①600	8.27 田沼意次失脚する。
1787	天明 7	この年 相良藩領が収公され、市域の相良藩領も幕領となる。①600 成道寺の宝篋印塔、信州高遠石工高島幸右衛門により造立。①800	5.19 松平定信の寛政の改革始まる。 10.2 田沼意次、家督を孫の意明に譲る。旧相良藩領は、葦山代官江川英征・中泉代官大草政董の一時預かりとなる。①601
1788	天明 8		この年 旧相良藩領、島田代官野田政晟の支配となる。①602
1791	寛政 3	6.26 林叟院境内図が描かれ、そのなかに経蔵・宝篋印塔がみえる。①748・798 この年「堀川」が新屋村から城之腰地先まで掘られる。①826 西光寺に白盆の句碑、建立。①970	
1793	寛政 5	6 城之腰廻船問屋齊藤清左衛門、焼津神社に石灯籠と油料1両を奉納。①907、③477号 この年 上小田村で検地施行。①635	
1794	寛政 6		この年 島田代官が廃止され、駿府代官に支配が一元化する。①597・600
1797	寛政 9	7 藤枝宿助郷44カ村の庄屋ら、助郷減免の訴訟を起こす。①729	
1799	寛政11	この年 岡部宿・藤枝宿助郷を勤める大覚寺村等11カ村、助郷免除の訴訟を起こす。①734	11.19 木喰上人、遠州狩宿に滞在。①714
1800	寛政12	7~8 木喰上人、石脇地区に仏像を残す。7月18日、常楽寺で薬師如来像を制作。21日、大日堂で吉祥天像を制作。22日、大日堂で大日如来像を制作。23日、大日堂で不動明王像を制作。下旬、勢岩寺で弘法大師像を制作。8月4日、宝積寺で地藏菩薩像を制作。①717・816~824	7.2 木喰上人、藤枝の常楽院に毘沙門天を残す。同じ頃、岡部町の光泰寺、十輪寺で仏像を制作。①716
1801	享和 1		この年 鯉節のカビ付け法が、伊豆安良里へ伝えられる。①846、②429
1802	享和 2	この年 岡田村が村境をめぐる中村を訴える。①816	
1804	文化 1	この年 花沢川悪水路相論が再燃。①818、③123・124・254~258号	9.6 ロシア使節レザノフ、日本人漂流民4人を伴い、長崎に来航。 この年 薪水給与令が出される。
1806	文化 3	3.27 花沢村で窃盗事件が起こる。①860、③99号	
1807	文化 4	1 城之腰村魚商人惣代と北新田・鯛ヶ島村漁師の間に相論が起こる。①849 4 大村新田、謝恩使来日に際しての国役免除を田中藩役所に願い出る。①866、③233号	
1808	文化 5	9.11 吉津村、虫害のため検見を願い出る。①697	8.17 フェートン号事件起こる。
1810	文化 7	7.11 請所新田の治兵衛が田中藩より世話役庄屋(大庄屋)に任命。大庄屋の初見。①766、③74号	
1811	文化 8	この年 花沢村善吉、毒荏原を譲り受けたいと法華寺に押しかけ、法華寺は不法を訴える。①864、③356~359号	
1812	文化 9	2 花沢村で窃盗事件が起こり、村中で潔白を誓う誓紙を作成。①860、③100号	
1817	文化14	9 可睡斎泰道、永豊寺本堂・庫裏を再建。①746 この年 焼津神社、本殿再建。①728	
1821	文政 4	11 収公されていた相良藩の旧領の一部、焼津村等10カ村が沼津藩領に編入。①600・604	
1822	文政 5	11 那閉神社の常夜燈、造立。①796 この年「諸国鯉節番付表」の西方二七枚目に、焼津節がみえる。①847、②432	
1825	文政 8		2.18 異国船打払令が出される。
1827	文政10	この年 保福島大井権現納額が奉納。①969	
1829	文政12	この年 駿府の魚問屋と、焼津湊3カ村惣代及び魚商人惣代との間で、取引の証文を交わす。①851	
1830	天保 1	9 浜当日村で賭博が流行し、賭博をした者、場を提供した者、それらの五人組に過料を課す取極めをする。①854、③77号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1832	天保 3	10.5 焼津浦直乗定七船が、入間村地内で座礁する。①832、③311号	
1834	天保 5	この年 焼津神社の神輿2基を造りかえる。①907	
1835	天保 6	6 若宮八幡宮の石橋が架けられる。①705・802	
1836	天保 7	10.8 岡部宿の貧困層が蜂起し、浜当日村鹿五郎宅を打ちこわす。①765 10 花沢村で窃盗事件が起こる。①861、③110号	この年 飢饉となり、各地で大規模な一揆が起こる。①765 6.28 モリソン号事件起こる。
1837	天保 8		
1838	天保 9	2 花沢村で再び窃盗事件が起こる。①861 11 上小田村村方三役、用水堰樋付替普請を要請する嘆願書を沼津役所へ提出。①818、③264号	
1840	天保11		この年 アヘン戦争起こる。島田宿方の財政難から、宿方の問屋・年寄が助郷村々に人馬継立の負担を転嫁する。①731
1841	天保12	4 焼津湊3カ村の夏狐船持・冬狐船持惣代及び常狐方肝煎、狐の方法を申し合せる。①843、③315号	5.15 水野忠邦の天保の改革始まる。
1842	天保13	この年 鈴木勢之助(外記)・村上弥作、国学の石川依平に入門。①957	
1844	弘化 1	3.24 林叟院の鐘楼、施主越後島甲賀伊兵衛により建立。①751 この年 塚本金平、国学の石川依平に入門。①957 浜当日村庄屋与五郎、退役を願い出、後任は入札で選出。①859、③80号	
1845	弘化 2	11 浜当日村中が連印し、賭博をしない旨の請書を村役人に差し出す。①854、③52号	
1847	弘化 4	この年 焼津湊3カ村と田尻北村との間に、鯉節の網引場について相論が起こる。①845、③318・319号 請所新田、島田宿人足役負担に加え、藤枝宿助郷役負担も求められる。①734、③238号	
1849	嘉永 2	11.8 川崎湊与平次が船が焼津湊前で難船し、遺体を川崎湊役人・親類衆に引き渡す。①834、③320・321号	
1850	嘉永 3	9.24 焼津湊3カ村、秋葉山へ大漁満足と諸災消除を祈願。①908、③528号 11 大村新田、江尻宿助郷を求められる。①734、③241号 この年 内田善七郎、国学の石川依平に入門。①957	この年 ラフカディオ・ハーン、ギリシャで生まれる。①789
1851	嘉永 4	2 焼津湊3カ村が狐の方法や乗組員の確保について申し合せる。①844 この年 村上良輔・塚本重次、国学の石川依平に入門。①957	
1853	嘉永 6	12 旗本大久保氏、異国船御用の際、領分各村の100石に対し2人の人夫を江戸屋敷へ呼び寄せとする。坂本村から8名が願い出る。①870、③121号	6.3 アメリカのペリー、浦賀に来航。 12 田中藩、海防軍備強化のため、江尻鋳物師町山田六郎左衛門に大筒の鑄造を発注。①870
1854	安政 1	1.10 焼津沖合に異国船が見え、焼津神社で祈禱を行う。①908 11.4 安政東海大地震。海蔵寺が大破するなど諸寺で倒壊の被害。①936、①746・771・773・775 この年 美濃岩村藩、吉津村などに対し、異国船来航時の人夫の差出を命ずる。①871 海蔵寺に徳川頼宣お手植えの梅を詠った句碑を建立。①970 古谷定吉、『算法通書』上・中・下を記す。①976、③534号	3.3 日米和親条約を締結し、下田・函館2港を開く。 8 増田宇兵衛船絵馬が描かれる(文久2年6月に片岡神社へ奉納)。①835
1857	安政 4	この年 焼津湊廻船問屋と荷主との間で、茶荷物の取り合いをめぐる事件が起こる。①828、③328号	
1858	安政 5		この年 安政の大獄始まる。
1859	安政 6	5 花沢川満水となる。①822、③123号 11 船頭吉右衛門らが乗船する福寿丸が紀州沖で難破、甚助が船板につかまり漂流。①838、①154	
1860	万延 1		3.3 桜田門外の変起こる。
1863	文久 3	この年 城之腰村役人、府中新通大工町の半助に焼津神社の神輿2基の新造を依頼。①908、③479号	

西暦	日本年号	市内(志太・益津地域)	市外
1864	元治1	この年 長津呂村沖で、焼津湊惣八船が遭難。①828、③336号	
1865	慶応1	5.18 將軍家茂に献上する鯛を用意するよう、焼津湊3カ村の役人に書状が出される。①848	
1866	慶応2	11 上小田村の栃山川通川除普請が完了。①812、③270号	
1867	慶応3	7.28 村松文三、平田篤胤に入門。①959 9.17 小川地蔵尊開帳。おかげ参りが急増。①75	9 薩長芸藩は倒幕挙兵の盟約を結ぶ。10.14 徳川慶喜、大政奉還を朝廷に上奏。
1868	明治1	2 鈴木楯雄が駿州赤心隊西組を結成。隊長となり、有栖川宮東征大総督の警備。①909・958 9 上小田村、大水・虫の被害で年貢の減免を要求。①696・813、③216号	1 明治政府成立。3.28 神仏判然令、制定。8 徳川家達が駿府城に到着し、静岡藩設置。①3
1869	明治2	12.29 一色村、村上孫重郎家に島田・藤枝・岡部宿36カ村の農民約2000人、年貢引き下げ要求。①77	6.17 版籍奉還で各藩主領地は政府の支配下に。①7
1870	明治3	2 城之腰の村松総五郎の私塾、潜心舎に。①57 11 郡政役所、博徒・博奕の取り締り。①6	この年 静岡藩、訴願・訴訟の法令を触れ出す。①4
1871	明治4	2.3 焼津市域に社寺領土地令が伝達。①8 6 最寄惣代、焼津村など10カ村へ戸籍法の件廻状。①11、④7・8号 7 戸籍法の趣旨を村全体に伝達指示。①11、④9号 8 潜心舎、城之腰・北新田・鯛ヶ島村で共有化。①57 10 第65区策牛村戸籍を作成、区に提出。①11、④10号 この年 小川地域に片岡惣八郎ら、集学所を設立。①57	1.5 政府、社寺領土地令を發布。①7 4.4 政府、戸籍法制定。①9 7.14 廃藩置県により静岡藩は静岡県に。①14 10.26 静岡県、戸籍区設定、各区に戸籍事務担当者(戸長・副戸長)の人選を通達。①11 11 遠江国が浜松県に、駿河国が静岡県に。①14
1872	明治5	1. 下旬 静岡県、戸籍調書提出を通達。この時期、県下各地に戸籍調所設置、焼津市域は田中調所の管轄下に。①12 5 第69区城之腰村・北新田村・鯛ヶ島村、戸籍表・職分表・寄留表を作成、県庁に提出。①12 この年 大村新田松永仁平方に製茶伝習所設置。①43 原川治兵衛、桑の苗を郡下に配布。桑園を開設、養蚕所で収繭生産するも失敗。①44	2 静岡県、駿河国区画割を布達。全81区に戸長・副戸長を設置。①12・14 7.4 地券発行の大蔵省達。①18 8.3 政府、学制頒布。9 静岡県、81区を廃止し、7大区41小区を設置。庄屋、名主、組頭等廃止。①14、④25号 10 大区小区制開始。①14
1873	明治6	4 小屋敷村一照寺に進正館設立。教師に士族で筆学師の田中稲作を採用。①58 この年から 関方村、山地開墾し、茶畑急速に増加。①42	1 静岡県は、学区取締りを増加、学区を画定。①57 2.9 県、1小区に惣代人1人選出を命ず。①58 2『静岡新聞』創刊。①80 6 静岡県、各区に地券調精算所設置。①19 7 静岡県、正副区長職掌規則を制定。①15 この年 地租改正。①17
1874	明治7	1 静岡県、「一小区へ三ヶ所小学校設立」指導で、下小田村に生田舎、田尻村に知新閣、一色・惣右衛門村に生(正)心舎を設立。①59、④74号 3 安倍川に架橋。魚行商に利用。④ 4 焼津市域内一部で地券交付済み。①20 7 進正館、文部省に村困窮で学校維持困難の上申。①66 9 城之腰郵便局設置。	1 大迫貞清権令が静岡県着任。①59 5.27 静岡県、学校規則制定。①67 8 静岡県、正副戸長を廃し、公選正副区長・正副戸長設置。①15 12.8 恤救規則制定。
1875	明治8	5 静岡県、第6大区7小区に桑苗3万本下付。①45 この年 大井川架橋、浜松・豊橋まで販路拡大。④433 大覚寺下村、物産取調書作成。①38 田尻北村に生田舎支校設置。①62 桜井孫兵衛、焼津神社祠掌となる。①70	6 静岡県地租改正人民心得書交付、旧駿河国の地租改正事業開始。①21・24、④13号 7 静岡県、大区ごとの地租改正取調所設置通達。①25
1876	明治9	2.9 第7大区3小区扱所は、歩詰帳簿編成心得方概則一筆限歩詰絵図帳書式振合を村々に回達。①26 11 県の要求で、益津郡浜当目村外6カ村・関方村・大島新田が「村持」の土地の取調書提出。①22 12 大島新田、関方村、浜当目村に実地丈量検査済証が交付。①27、④15号 関方村、改正地引絵図作成。①23 この年 石津村に生田舎支校設置。①62 保福島村民、瀬戸川橋の仮橋架橋工事着手。①97、④35号	8.21 伊豆・駿河・遠江3国が統合し、現在の静岡県域に。①14 8 静岡県、上下等小学校則及び教則改定。①68 9 県、実地反別地価取調帳調査心得細目公布。①27 12.18 区が相当学校を建設、衛生保持を通達。①73 12 静岡県(旧駿河国)管内で実地測量完了。①27 第1回静岡県民会開院式。①80 この年 政府、天然痘予防規則公布。①93

西暦	日本年号	市内	市外
1877	明治10	この年 駿河国益津郡関方村普通物産表作成。①39 生田舎石津支校が分離・独立。生田舎は琢磨齋と校名変更。①62 この頃 志太郡下で物産隆盛講設立、村々の農学会長活動。①46	2 県、地位認定人民心得規則を布達。①27 5 第2回静岡県民会、開催。①80 12 県、区戸長に地租代米納取扱規則を通達。
1878	明治11	3頃 焼津市域の官民有区分終了。①22 5.20 益津郡関方・策牛両村、地券小前帳御引直願を提出。①24 8 琢磨齋、校舎を新築。①62・73	7.22 郡区町村編制法・府県会規則・地方税規則の三新法制定。①32 8 県、府県会規則に基づき県会議員選挙法を制定。①32
1879	明治12	5頃 益津郡坂本村、村会議員選挙実施。①33 9.25 藤枝で益津・志太郡を基盤に民権結社・益志社結成。①80 11.3 藤枝上伝馬町洞雲院で扶桑社の創立大会開催。11月22日結成。①81、④40号	1 静岡で参同社・浜松で己卯社結成。①80 3.12 大区小区制の廃止と郡制の制定、各町村戸長は公募。①32 3.28 県、町村会規則を制定、同規則による議員選挙実施と町村会の開会要請。①33 5.10 第1回通常県会開会。6.27 政府、コレラ病予防仮規則公布。①93 6『函右日報』発刊。①80
1880	明治13	1 原川治兵衛が通船会社を創立。①50 3.22 扶桑社・己卯社・参同社で県下の国会開設請願運動の協議。①82 3 坂本村、農政図作成。①41 4 原川氏、振業社(物資運送・販売業)設置。①50 6.8 関方村、農政図作成。①40、④46号 8 坂本村、村会規則議決。①33	2 静岡県駿河国(耕地地)改租許可。①30 4.8 政府、区町村会法制定。①33 6.15 政府、備荒儲蓄法制定。①98 7.9 政府、伝染病予防規則公布。①93 12.27 磯部物外・広住久道ら県民有志1万5735人、国会開設建白書を元老院に提出。①82
1881	明治14	4.24 扶桑社起業課通船部を開業。①50・82 6.20 栃山川川堤防決壊(大富村治長請所・中根新田・本中根で水害被害)。①168 10 通船会社、井川郷田代村(静岡市)の山林1万5000町歩余を購入。①51 この年 原川氏、夷堰社(海運業)設置。①50	10.12 政府、「国会開設ノ勅諭」公布。10.13 県民1万9089人の建白総代磯部物外・清水綱義・広住久道ら、「国会開設ノ建言」。①82 12.10 静岡県改進黨が発足。①83
1882	明治15	この年 焼津銀行、経営開始。①121 小川村に養蚕伝習所が開設。①45 コピーライターの片岡敏郎、小川村に生まれる(1945年没)。	1.13 自由党地方支部として岳南自由党、結成。①83 12.1 福島事件。①84 この年 子坂村杉山力蔵、和歌山県糸我村から夏ミカンと八代ミカンを移入。①45
1883	明治16	この年 第1回水産博覧会、焼津の鯉節が3等に入賞。④458	3.20 高田事件。①84 12 静岡県全県的に新地券下与、完了。①32
1884	明治17	この春 拡栄社、木材を木屋川へ流し海軍省へ納入。①55 5 魚商団体設立。④442 7.26 志太・榛原郡等各地の農民、地方銀行・貸付会社利子軽減のための請願盟約。①78 8 志太益津両郡製茶共進会規則。①47 9.15 台風で志太・益津郡下に被害、死者5人・負傷者17人。①78 この年 志太・益津郡のミカン商人、申合組合を組織。①45	3 通常県会で静岡市の鈴木八郎ら、鉄道敷設に関する建議提出。①105 6.30 県、戸長役場位置・所轄町村区画を定めて地方行政区画を変更。戸長公選制廃止、7月1日に官選戸長を任命。①36 10 東海道鉄道誘致運動で、県議員が上京。①105 この年 県下各村勸業委員が設置。①46
1885	明治18	8『静岡大務新聞』に井上寛一「駿州地方巡察録・巡回記略」掲載。①79 この年 静浜石部間の池ヶ谷街道(大崩道)開通。瀬戸川に赤池橋架設。①805、④450 焼津湊3カ村鯉節生産量5330貫。④	4.10 小学校令公布。①129 5.6 漁業組合準則の公布。④ 6.11 静岡事件。①84
1886	明治19		
1887	明治20	この年 焼津に夜学舎が設立。①146	
1888	明治21	1.23 大富村農会、設立。①48 2.14 和田村農会、設立。①48 この年 村松善八・山口平右衛門、伊豆田子で鯉節製法を学ぶ。④460	4.25 政府、市制・町村制公布。①88
1889	明治22	3 志太益津郡漁業組合創立(初代組長山口平右衛門)。④138 小川村農会・豊田村農会が設立。①48・190 4.22 東海道鉄道、静岡―浜松間が開通。焼津駅設置。①109 4 焼津村・東益津村・豊田村・大富村・和田村・小川村(西益津村・広幡村)が成立。58カ村から8カ村に。①90 小川村に春期第2回養蚕伝習所開設。①47 9 志太益津郡指示で、牛馬耕共進会開会。①47 12 駿遠豆漁業者と三宅・神津両島漁業者、通漁規約結ぶ。④ この年 城之腰に水産会社・三星水産商社設立(翌年●焼津水産資)。④445	2.11 大日本帝国憲法公布。皇室典範制定。3.23 土地台帳規則公布。4.1 町村制施行。11.16 県、漁業取締規則制定。

西暦	日本年号	市内	市外
1890	明治23	5 い駿南水産産設立。㉔447 10 城之腰で類似コレラ発生。㉔95 この年 志太益津郡第1回柑橋品評会開催。㉔46 瀬戸川橋架橋工事を県が許可。渡橋銭徴収。㉔97,㉔105・106号 高知県の鯉節製造教師,河内弥之助を招き伝習所開設。㉔461	6 長崎県を起点に全国でコレラ発生。㉔95 10.30 教育ニ関スル勅語発布。11.29 大日本帝国憲法施行。この年 ラフカディオ・ハーン来日。㉔789
1891	明治24	7 藤枝焼津間軌道会社,人車鉄道を焼津-瀬戸川-藤枝間運行開始。㉔110 この年 志太益津郡蜜柑業同業組合が組織。㉔46・200	11.17 学級編制等ニ関スル規則制定。㉔130・137
1892	明治25	1 焼津村農会設立。㉔48 3 和田少年会設立。㉔145 10.10 志太・益津両郡連合農会創立大会,開催。㉔48 10 焼津村,区画規定改正し旧村一区で区長・区長代理を設置。㉔92,㉔100号 11.3 小川尋常小学校,郡役所から「御影」受け取る。㉔129 この年 八楠に養成舎設立。㉔146	この年 焼津街道開削工事費用負担で藤枝町・焼津・豊田・西益津村が,藤枝町外三ヶ村組合会組織。㉔96・184,㉔104号
1893	明治26	3 東益津村農会設立。㉔48 4.17 北新田に㉔共同水産産設立。㉔107・㉔449	7 文部省訓令,女子教育ニ関スル件。㉔137
1894	明治27	9.3 暴風雨で桁山川洪水。大島等に被害。㉔168 この年以降 各村内に報徳社組織。㉔190	8.1 日清戦争開始 9.1 文部省訓令,小学校生徒ノ体育及衛生ニ関スル件。㉔228
1895	明治28	3 城之腰水産物製造販売組合を焼津魚商信用組合と改称。㉔464 この年 第4回内国勲業博覧会で村松善八の鯉節有功一等賞。㉔458	8 県,農会規則制定。㉔48 この年 ラフカディオ・ハーン,日本に帰化し小泉八雲と名乗る。㉔789
1896	明治29	4 志太・益津両郡連合農会,志太郡農会と改称。㉔48	3.24 造船奨励法・航海奨励法公布。㉔
1897	明治30	4 魚の“あら”処理の㉔焼津肥料産設立。㉔470 8 小泉八雲,城之腰の山口乙吉宅で避暑。以降,1904年までに計6度の夏を過ごす。㉔150・789 9.8 暴風雨で焼津村・小川村・大富村に被害。㉔169,㉔112号	1.11 文部省訓令,学校清潔方法。㉔228 3 遠洋漁業奨励法公布。㉔75 4.1 伝染病予防法公布。㉔94 この年 文部省訓令,男女別学級を定める。㉔137
1898	明治31	5 小川村,区会条例制定し,小川区の区会設置。㉔93,㉔98号 11 魚商人㉔焼津運送産設立。㉔474	1.12 政府,公立学校ニ学校医ヲ置クノ件。㉔228
1899	明治32	10.7 暴風雨で堤防決壊。城之腰,鯛ヶ島に被害。㉔169,㉔112号 12 和田村,甲子講が設立。㉔127 この年 焼津地先護岸工事の着工。㉔269	3.22 耕地整理法公布。6.9 農商務省,農会法公布。㉔48 この年 罹災救助基金法,制定。㉔98
1900	明治33	3.1 焼津郵便局,電信業務開始。㉔108 この年 豊田村青年夜学会・和田村青年会,設立。㉔146,㉔168・169号	2 勅令により農会令公布。㉔48
1901	明治34	1 重要物産同業組合法により志太郡柑橋同業組合が組織。㉔46 4 焼津尋常小学校が男女別で焼津尋常高等小学校と焼津女子尋常高等小学校の2校に(1904年再統合,焼津尋常高等小学校に)。㉔139	4.13 漁業法公布。
1902	明治35	1 志太郡奨兵会規程,作成。㉔101,㉔117号 7.1 私塾松永裁縫教授所,開設。㉔239 この年 五ヶ堀之内区,耕地整理事業実施へ。㉔181,㉔212号	6 農商務省,農事試験場園芸部園芸試験地を庵原郡焼津町に設置。㉔46・199
1903	明治36	1.16 焼津町,火災。全戸数の約30%焼失,罹災救助基金法適用。㉔98・170,㉔112号 1 焼津漁業組合設立(初代組長山口平右衛門)。㉔139 10 大富村で青年矯風会組織。㉔146 この年 豊田村,耕地整理。㉔190	3.5 志太郡立農学校設立認可。
1904	明治37	4.26 志太郡長,小学校長に戦時教育方針提示。㉔140 11 大富村奨兵義会,組織。㉔101	2.10 日露戦争開始。9.26 小泉八雲没(55歳)。
1905	明治38	この年 焼津の夜学舎と八楠の養成舎,焼津夜学舎に。㉔146	9.5 日露講和条約調印。
1906	明治39	5.9 静岡県水試,初の動力船富士丸鰲釣り成功。㉔112,㉔80 12.25 焼津・駿南・共同の3社合併,㉔焼津水産産設立。㉔476	この年 耕地整理及土地改良奨励規則,制定。㉔180
1907	明治40	4 水産物製造販売組合,静岡製氷会社と売買契約。㉔480 5.20 豊田村経済調査書発行。㉔248 11 ㉔東海遠洋漁業株創立(片山七兵衛社長)。㉔84 この年 新屋~鯛ヶ島の防波堤全長577間完成。	5.10 県,トラホーム予防規則制定。

西暦	日本年号	市内	市外
1908	明治41	5 焼津郵便局で電話交換事務開始。㉔109 6 ㉔有限責任焼津町生産組合設立(初代組長山口平右衛門)。㉔112・126,㉔95 焼津生利節を冷蔵貨車で輸送,全国初の試み。㉔482 12 焼津水産物製造販売組合を解散,㉔焼津水産会を結成。㉔478 この年 焼津港湾期成同盟会結成。㉔247	10.13 戊申詔書。
1909	明治42	10 大富青年矯風会,大富村青年会と改称。㉔147,㉔325号 この年 焼津製氷会社設立。㉔480,㉔26・27号	11 志太郡,実業補習学校の完備を指示。㉔147,㉔170号
1910	明治43	3 和田農業補習学校・焼津実業補習学校設立。㉔147 8.7~11 豪雨で志太地域に大災害。瀬戸川堤防決壊で焼津町全域が浸水等。㉔170・182,㉔112号 12 駿遠鉄道株,発足。㉔110・㉔131号	11.12 漁業組合令公布。㉔
1911	明治44	5.28 焼津町北新田地区で火災。㉔171,㉔112号 7.25 暴風雨で青峯丸・古早丸・鈴吉丸が久能三保沖で遭難。㉔171 この年 藤枝町ほか13カ村,水害予防組合を組織。㉔182	8.22 駿遠鉄道敷設認可。8.28 藤相鉄道敷設認可。
1912	大正1	5 焼津の町に電灯。7 大富村会,罹災救助規程を議決。㉔99,㉔113号 10.1 赤阪鐵工所設立。㉔82	
1913	大正2	3 鯉節荷質金融の焼津倉庫会社設立。㉔490 5 大日本製氷株,新屋に工場建設。㉔481 この年 村松直治郎,奄美大島へ進出し荒節製造。㉔498	
1914	大正3	1.14 伊平次丸転覆。㉔132号 8 暴風雨による防波堤決壊・漁船遭難等の被害相次ぐ。㉔254・256	8.23 ドイツに宣戦布告。
1916	大正5	10 豊田村地主会,設置。㉔249,㉔274・275号 この年 焼津尋常高等小,合同体操規程。㉔232 静岡商業銀行,焼津支店を開設。鯉節金融。㉔492	10 県,賑恤資金窮民救助規程。㉔186,㉔225号
1917	大正6	5 焼津町,貧困児童就学出席奨励給与規程。㉔186,㉔226号	
1918	大正7	5 北浜・南浜に漁船用簡易水道施設完成。㉔ 8.14 焼津町内米穀商に群衆乱入,16日に焼津町,米穀廉売。㉔245,㉔231・232号 10 志太郡斯民会,志太郡勲業計画刊行。㉔221 この年 東益津女子実業補習学校設立。㉔148	7.23 富山県で米騒動。8.2 シベリア出兵宣言。9.26 原敬内閣成立。10 方面委員制度開始。㉔186 綴方雑誌『岳陽文壇』創刊。㉔310
1919	大正8	3.8 福吉丸,遭難。㉔257 5.20 焼津町役場,地主小作間の紛擾調査。㉔249,㉔233・234号 6.18 志太郡水産組合,小学校教育に水産科目導入を焼津町に要望。㉔239 6.25 焼津魚肥製造株創立。㉔212 6 東益津村坂本,潮風害の不作で地主と小作農が小作米納入で対立。㉔250,㉔279号	8.30 友愛会,大日本労働総同盟友愛会と改称。㉔328
1920	大正9	4.11 株焼津銀行,明治銀行に合併。㉔121・123 4 同人誌『濼青』,創刊。㉔316 第2大洋丸,業界初のディーゼル機関。㉔81	3.15 株式市場の株価大暴落で戦後経済恐慌。4.5 都市計画法公布。
1921	大正10	2.28 城之腰で火災。㉔255,㉔328号 3.10 大富郵便局,集配事務開始。5 ㉔焼津水産産解散,6月1日㉔焼津水産株設立。㉔520 この年 焼津・小川・大富尋常高等小で綴方研究会開催。㉔226	1.8 志太郡役所,中等学校等の入学競争試験準備が児童に与える影響を調査。㉔235 3 静岡県水試,「指導船富士丸ト陸地無線電信ノ施設」発行。㉔216,㉔120号
1922	大正11	3.4 和田村田尻地区,小作料の協議書締結。㉔250 3.10 焼津町立焼津水産学校の設立認可,4月11日開校。㉔187・241 10.4 福一丸にコレラ患者3人発生。㉔255,㉔329号 12 綴方雑誌『かもめ』創刊。㉔310 この年 大富村,耕地整理決定。㉔182,㉔214号 焼津実業補習学校,学則改正で水産補習目的に。㉔148,㉔173号	4.13 少年団日本連盟設立。㉔388
1923	大正12	5 焼津水産学校練習船白鳥丸進水。㉔304 8 藤相鉄道,藤枝一岡部間運行。㉔111,㉔132号 9.5 焼津町,焼津停車場に大震災の罹災者救護所設置。㉔253 この年 焼津町役場第二課,職掌に社会事業追加。㉔187	4.18 陪審法,公布。9.1 関東大震災,このため当地漁船14隻徴発。11.10 国民精神作興ニ関スル詔書,発布。

西暦	日本年号	市内	市外
1924	大正13	4 焼津町初の鋼船第3川岸丸進水。㊦81 5 常盤幼稚園、開園。焼津初の幼稚園。㊦225	5.15 アメリカで排日移民法可決。㊦296 7.22 小作調停法成立。㊦332
1925	大正14	2 砂防のため黒石川河口に突堤設置。㊦269 3 焼津漁業組合に漁業無線局が認可。㊦4 焼津水産学校、県に移管、甲種へ昇格。㊦304 5.14 小泉八雲諷詠之地記念碑建立。㊦159	3.19 治安維持法可決。 3.29 普通選挙法成立。 3. 船舶無線電信法の公布。㊦ 12.20 静岡県無産青年同盟、創立。㊦329
	大正年間		この頃 柳宗悦が木喰上人の遺品発見。㊦711
1926	昭和1	1.9 魁洋丸、遭難。㊦257、㊦133号 6.28 焼津町青年訓練所、設置認可。㊦307 9 貞善院総門、建立。㊦775 同人誌『杜鵑』、創刊。㊦316 10 ㊦合同運送機設立。㊦516	3.5 労働農民党、結成。㊦329 4.8 島田合同労働組合、結成。㊦334 8 全国無産青年同盟、結成。㊦329
1927	昭和2	5 市域の小学校でアメリカ人形歓迎会。㊦296 6 焼津水産学校練習船第1世東海丸竣工。㊦304	3.31 公益質屋法、公布。㊦263 3 金融恐慌起り、銀行の支払停止続出。㊦526、㊦263
1928	昭和3	3 当地漁船39隻にラジオ施設。㊦ 11 同人誌『太陽詩人』、創刊。㊦316 この年 若宮八幡宮、現本殿を再建、拝殿を増築。㊦730	3.15 三・一五事件。㊦330 11.1 ラジオ体操開始。㊦299 この年 全府県に方面委員が設置される。㊦187 静岡県水試、鮪油漬け缶詰製造に成功。㊦278、㊦534
1929	昭和4	2.25 大富尋常高等小で綴方研究会。㊦227 5 水産学校、対米輸出鮪油漬け缶詰試作。㊦306、㊦534 7.25 藤相鉄道自動車部・焼津自動車共同で、焼津一川崎間乗合自動車が行開始。㊦588 この年 普通選挙により焼津市域の町村会議員選挙実施。㊦261	3.10 全国農民組合静岡県連合会結成。㊦332 4 救護法、制定。㊦264 10.24 世界大恐慌始まる。 この年 昭和恐慌。 清水市の鈴木与平、清水食品を設立。㊦278
1930	昭和5	3 鯉節商組合、㊦組合と共同で鯉節倉庫を取得。㊦554 5 天皇行幸。㊦545 この年 焼津水産銀行が前身の焼津銀行、経営開始。㊦121 藤相鉄道、焼津自動車を合併。㊦588	この年「日本一の健康優良児」表彰制度。㊦299
1931	昭和6	7.10 平運丸、漂流。㊦258、㊦167号 10 焼津水産魚市場、開設許可。㊦291 11 村松良右衛門、焼津町新屋に焼津初の缶詰工場・焼津食品貯蔵所を新設。㊦279、㊦537 12.30 赤坂鐵工所で労働争議。㊦334、㊦470・471号 この年 庵原市蔵、バラオで南洋節の生産。㊦556	1.28 上海事変勃発。 5.25 後藤缶詰所、清水で操業開始。 9.18 満州事変。
1932	昭和7	1 東益津村石脇で小作争議。㊦333、㊦468・469号 4 魚市場規制に不満、魚商人不買不払同盟。㊦550 5 村松善八、焼津水産缶詰を発売。㊦280、㊦538 7 築港期成同盟会、設立。㊦269、㊦340号 9 焼津銀行、廃業。㊦121 この年 黒石川河口突堤延長工事。㊦269	12 文部省、校外生活指導ニ関スル件。㊦388 この年 農山漁村経済更生運動開始。㊦266、㊦389号
1933	昭和8	3 ㊦会社、水産工業部を付設、鮪油漬け缶詰を製造。㊦280、㊦539 5頃 焼津東・西・南の各小学校ごとに少年団結成。㊦388 10 焼津町、公益質屋を設置。㊦263、㊦357号 焼津蒲鉾組合結成。㊦584 11 同人誌『漁師』発行。㊦316 この年 庵原市蔵、南洋進出事業を南洋興発会社水産部に改組。1935年に独立。㊦558 焼津食品貯蔵、後藤缶詰所に経営権を移譲。㊦279	1.21 県農村経済更生委員会設置規程、制定。
1934	昭和9	5.28 焼津町実業協会、創立。㊦361 8 築港事業、始動。㊦336・561、㊦351号 12 港湾協会、焼津港修築計画調査を実施。㊦337、㊦352号 この年 焼津町、都市計画法適用。㊦267 静浜街道が静岡川崎線と改称、県道昇格。 志太中央商会、静岡電気鉄道と合併。㊦588 焼津水産缶詰機、後藤缶詰所の傘下に。㊦280	11 帝国少年団協会、創立。㊦388 この年 経済更生委員会、編制。㊦267

西暦	日本年号	市内	市外
1935	昭和10	4.1 焼津実業補習学校と青年訓練所が合併、焼津町立青年学校と改称。㊦405 4 駿遠自動車株、用宗一焼津間バス運行。㊦588 5 港湾協会の焼津港修築計画概要、焼津町に提出。㊦338、㊦353号 11.13 同人誌『火耕』の同人、藤枝警察署に逮捕。㊦323 この年 7ヵ年事業の焼津漁港修築工事施工が決定。㊦561	1.31 県下の鯉節業組合連合会が結成。㊦293 4.1 政府、青年学校令公布。㊦405 6 児童服装の統一。㊦301
1936	昭和11	1 第2三徳丸トラック島に出漁、以降南洋漁場の開発。㊦ この年 缶詰製造の松村商店、発足。㊦会社水産工業部、独立し丸東缶詰機に。㊦280	2.26 二・二六事件
1937	昭和12	2 焼津漁業組合、保証責任焼津漁業協同組合に改組。㊦ 9.17 焼津東尋常高等小で防空演習。㊦386 10 初の軍用徴用船にサバ船4隻。㊦431 この年 東益津村銃後援委員会、設置。㊦345 ㊦富士屋本店を東京都築地に開設。㊦282	6 漁船保険法施行。㊦ 7.7 日中戦争始まる。 9 外国為替管理法改正、臨時資金調整法、輸出入品等臨時措置法制定。㊦342 この年 臨時地方財政補助金、開始。㊦342 振興委員会、編制。㊦267
1938	昭和13	この年 缶詰製造の南興食品株、創業。㊦280・571、㊦540 焼津市域で物資配給制度開始。㊦343	4.1 国家総動員法公布。 4.2 農地調整法公布。㊦456 12.12 静岡県中央商工相談所設置。㊦364
1939	昭和14	4.1 焼津八雲会、結成。㊦159 8.6 勢進丸遭難。12人犠牲。㊦259 この年 焼津漁港築港工事着手。㊦465、㊦247	4.26 青年学校令改正、男子義務制に。㊦405 7.1 金保有状況調査、実施。㊦359 8 興亜奉公日設定。㊦346 10.18 価格等統制令など公布。㊦365 11.4 県、商工更生委員規程を制定。㊦363
1940	昭和15	6 焼津蒲鉾工業組合設立。㊦584 6 焼津鯉節卸商組合設立。㊦ 8 焼津町第一区(鯛ヶ島)、築港「救済施設」実施の陳情書を町に提出。㊦341、㊦355号 10 焼津地区の漁船が大量徴用。㊦431	8 中央卸売市場に対する統制開始。㊦371 11.1 切符制が全国実施。㊦367 この年 地方分与税、開始。㊦342
1941	昭和16	4 焼津自動車株(焼津タクシー)創立。㊦357 5 焼津町、土地区画整理事業認可。㊦562 6 水産学校校友会を報国隊に改組。㊦400 8 日本坂トンネル開削着工。㊦429	3.1 国民学校令公布。㊦390 8 石油の対日輸出全面停止。㊦357 11.22 国民勤労報国協力令公布。 12.8 日米開戦。 この年 県、各種の配給統制規則制定。㊦372
1942	昭和17	3 皇道産業、セレベスへ先遣隊。㊦ 5 造船業者統合、株焼津造船所設立。㊦979 10 皇道産業焼津踏込設立。㊦590	1 農林省、徴用特殊漁船を募集。㊦437、㊦238・239号 5 ミッドウエー海戦。 水産統制令公布。㊦581
1943	昭和18	2 皇道産業フィリピン、ボルネオ派遣団173名焼津出港(以後第4次派遣団まで600余名)。㊦590 4 水産学校、修業年限が4年に。㊦402 5 駿遠自動車株・藤相鉄道自動車部のバス路線、静岡鉄道に統合。㊦588 8 ㊦・㊦企業合同、昭和漁業株設立。㊦196、㊦473 12 焼津女子商業学校設立。㊦404、㊦449号	12 静浜村上下小杉地区に海軍基地建設を決定。㊦418 この年 鯉節漁労促進隊要綱決定。㊦438、㊦241号
1944	昭和19	2.1 焼津漁業協同組合共同販売所開設。㊦582 3 昭和漁業株、株昭和造船所の設立申請。㊦382 8.21 昭和漁業株所属の漁船、特殊漁船部隊の東京湾防備隊に編成。㊦439、㊦244・245号 10.21 静岡県南方石油輸送統制組合を組織。㊦440、㊦250・251号 この年 焼津神社、拝殿再建。㊦728	3.3 一般疎開促進要綱、決定。㊦408 3.7 決戦非常措置要綱に基づく学徒動員実施要綱。㊦411 6.15 米軍、サイパン島上陸。㊦355 10.20 米軍、レイテ湾上陸作戦。㊦354 11 米軍、日本本土爆撃開始。 12.7 東南海地震。㊦398
1945	昭和20	1 海軍航空隊藤枝基地発足。㊦420、㊦360・361号 4.1 常盤幼稚園、休園。㊦225 7.17 県水産業会と東益津・焼津・小川・和田各町村漁業会が防空出漁対策。㊦425、㊦256号 7.24 焼津港漁船、静岡沖で爆撃。㊦426 7.26 焼津町中港、大型模擬爆弾被災。㊦426、㊦362号 7.29-30 焼津町・小川村に爆撃被害。㊦426 8 軍が保有する残存船舶の払い下げ交渉。㊦472 11 旭航空工業、昭和水産工業株と社名変更、昭和漁業株の加工部門を担当。㊦571	4.1 米軍、沖縄本島上陸。 8.6 広島に原爆投下。9日、長崎に投下。 8.14 ポツダム宣言受諾。 9.15 文部省、新日本建設ノ教育方針を発表。㊦499 9.27 マッカーサーライン設定。㊦206 10.11 GHQ、5大改革を要求。㊦500 11.3 新日本婦人同盟が結成。㊦526 12.1 全日本教職員組合、結成。㊦506 12.29 農地調整法中改正法律(第一次農地改革法)公布。㊦456

西暦	日本年号	市内	市外
1946	昭和21	1.21 志太郡教育会、組織。⑤507 4.25 志太地方事務所、停止授業の代行教育計画と新学期使用教科書を提示。⑤503 4 焼津女子商業学校、専攻科設置。⑤518 5 焼津町農地委員会開催。⑤462 6.27 県下被徴用船舶主、徴用漁船損害補償を陳情。⑤441、⑤268号 6 天皇、焼津を視察。11 焼津地区労働組合協議会、結成。⑤507	1.1 天皇、人間宣言。4.10 新選挙法による衆議院選挙。⑤526 6.9 静岡県教職員組合、結成。⑤506 9.9 生活保護法、公布。⑤448 10.21 農地改革二法公布。⑤457 10 静岡県婦人連盟が結成。⑤526 11.3 日本国憲法公布。12 政府、「学校給食の普及奨励について」発布。⑤604
1947	昭和22	5 焼津水産商工業協同組合設立。⑥604 6 焼津女子商業学校併設中学校、開設。⑤518 7.13 静岡県缶詰株、ミカン缶詰をイギリスに輸出。⑤571 9 缶詰生産の丸富食品株、創立。翌年、国際缶詰と改称。⑤572 駿遠鉄道株、静岡鉄道駿遠線へ継承。⑤111 10 昭和漁業株、船元会会則・船体共済会規定・船員共済会会則等を整備。⑤496 この年 築港事業、5ヵ年計画で再開。⑤465 林叟院鐘樓、瓦葺替および小屋組改修。⑤751	2.1 ニースト、挫折。⑤508 3.31 教育基本法、学校教育法、公布。⑤503・608 3 県連合青年団、結成。⑤521 4.1 国民学校、廃止。新制小学校・新制中学校が発足。⑤503 4.17 地方自治法公布。⑤449 5 県、特別区域指定委員会設置規程を制定。⑤466・469 6.27 県教職員組合、第1回大会。⑤508 この年 全国都市の児童への学校給食開始。⑤604
1948	昭和23	2 焼津町、自治体警察設置。⑤451、④478号 3 大富村大島の兵舎跡を米軍が接収。⑤620 4.1 焼津水産学校が静岡県立焼津水産高等学校に、焼津女子商業学校が私立焼津高等学校に改称。⑤511 9.16 アイオン台風襲来、床上浸水・田地冠水等の被害。⑤629 9 焼津町税賦課徴収条例改正、都市計画税を賦課。⑤562 10.2 焼津水産高校定時制設置。⑤514 この年 和田小、ミルク・副食給食開始。⑤606 焼津町と東益津・豊田・小川3ヵ村との間で合併協議、否定的。⑤452、④485号	1 藤枝飛行場旧農地所有農民、航空基地開拓に関する陳情書提出。⑤619 2.20 食料品配給公団、発足。翌年6月、廃止。⑤571 3 静岡県青年団連絡協議会、結成。⑤521 5 鯉節の統制解除(カツオの統制は継続)。⑤ 7.15 教育委員会法が公布、都道府県・市町村に公選制教育委員会設置。⑤509、④538号 12 日本缶詰研究所・日本缶詰協会、改組して、日本缶詰協会に改称。⑤571 水産業協同組合法公布。⑥256
1949	昭和24	4 昭和産水工業株、缶詰生産開始。⑤571 5.1 焼津電報電話局、創設。6 焼津鯉節水産加工業協同組合設立。⑥653 9 小泉八雲滞在の家、静岡県史跡に指定。⑤160 この年 小川小、副食給食開始。⑤606 焼津商工会、組織。⑤589 東益津・焼津・小川・和田の各漁業協同組合、設立。⑥ 常盤幼稚園、再開園。⑤608	1.26 法隆寺金堂壁面焼損。⑤694 6.6 土地改良法公布、耕地整理法廃止。⑤564 9.28 県教育委員会、整理対象者リストを作成(レッドパーズ)。⑤509 10 県漁連・県信漁連設立(県水産会解散)。⑥260 12.15 私立学校法公布。⑤519 改漁業法公布。⑥ この年 ドッジ・プランを発表。⑤479
1950	昭和25	2 ⑤焼津信用組合が発足。⑤479 焼津瓦斯株、創立。⑤582 3.3 藤枝飛行場第二滑走路・大島地区の一部、開拓農業協同組合に払い下げ。⑤620 6 焼津町警察基本条例。⑤451、④479号 8 八雲生誕百年祭、町立図書館に八雲文庫を設置。⑤160 10 築港にカツオ漁船初水揚げ。⑥	3.10 県婦人団体中部地区協議会、婦人大会を開催。⑤526 4 鮮魚介統制撤廃。⑥613 5.30 文化財保護法公布。地方財政平衡交付金制度、開始。⑤342 6.25 朝鮮戦争勃発(〜1953年7月)。6 日本鯉節協同組合連合会(日鯉連)設立。⑥
1951	昭和26	2.15 第5若佐丸遭難、20人行方不明。⑤632 3 焼津町、市制施行で焼津市に。⑤452・551 4 焼津瓦斯株、ガス供給開始。⑤582 6 後藤缶詰株、焼津水産缶詰・焼津食品を合併。⑤573 8.1 焼津飛行場維持農業協同組合、横田航空基地と協定書。⑤620、④483号 8 焼津漁港指定(第3種)、小川漁港指定(第2種)。⑥249 9 焼津商工会議所、創立。⑤589 焼津魚市場経営で協定調印。⑥629 10 焼津信用組合、信用金庫法施行で焼津信用金庫に改組。⑤481	3 静岡県缶詰工業協同組合が発足。⑤571 6 ガリオア資金打ち切り、学校給食継続の危機。⑤604 9.6 対日平和条約。9.8 日米安全保障条約。12.17 水産資源保護法公布。⑥ 12 アメリカ、鮪油漬缶詰の関税引き上げ。⑤573
1952	昭和27	1 焼津水産加工業協同組合設立。⑥ 5 焼津蒲鉾商工業協同組合設立。⑥ 6.24 ダイナ台風襲来、市域で床上浸水584世帯。⑤629 10 焼津自動車株、バス事業開始。⑤583 11 静浜飛行場対策委員会、組織。⑤621 市町村教育委員会、設置。⑤509	1 李ライン設定。⑥354 4 通産省、鮪缶詰輸出調整。⑤573 マッカーサーライン撤廃。⑥206 10.2 イギリスが核実験。⑤550 12.12 県議会、焼津航空基地用地返還の意見書を内閣に提出。⑤621

西暦	日本年号	市内	市外
1953	昭和28	5 東益津村青年団誌『青苑』発刊。⑤523、④548号 焼津遠洋漁業協同組合設立。⑥239 6 和田村で農繁期の季節保育所開設。9月に和田保育所、翌年12月に村立和田幼稚園に。⑤609 11.1 豊田村、焼津市へ編入。⑤453、④487号 12.26 第5幸生丸遭難、34人犠牲。⑤633、⑤302号 この年 昭和漁業より各船元離脱開始、個人船主に。⑥	4.1 県漁業協同組合連合会、漁業遭難救済規程を決定。⑤633、⑤304号 4 農林漁業金融公庫の設立。⑥260 7 カツオマダロ漁船大型化の特例法施行。⑥214 8 県漁業信用基金協会創立。⑥260 9 町村合併促進法公布。⑤453 12 県、町村合併計画策定要領を取りまとめる。⑤453
1954	昭和29	2 小川町、和田・大富両村呼びかけで、合併促進協議会設置を議決。⑤454、④489号 3.1 第5福竜丸、ビキニ島付近で被爆。⑤531、⑥643、④563号 3.26 焼津水産業者、原爆鮪に対する損害賠償要求。⑤538、⑤305号 3.27 市議会、「原子兵器使用禁止の決議」。⑤528・540、④564号 3.31 西益津村大覚寺、焼津市に合併。⑤454 4 組合立協立焼津病院を市立病院として開設。5 小川町・和田村・大富村・焼津市、1市3ヵ町村の合併協議会設置。8月には東益津村が加入。⑤454、④491・492号 9.22 水爆被害対策市民大会。⑤542、④565号、⑤313号 9.23 久保山愛吉氏、急性放射能症で死去。10月9日、県漁民葬。⑤542、⑤314・315号	3.16 『読売新聞』に第5福竜丸がビキニ原爆実験遭遇との一報。⑤533 4 日本学術会議、原子力平和利用三原則の表明。⑤549 5.9 原水爆禁止署名運動杉並協議会(東京)結成。⑤549 5.15 地方交付税法公布。⑤342 5 志太郡吉永村で「村民の声」署名運動。⑤541 第5福竜丸、文部省が買上げ。後に東京水産大学練習船はやぶさ丸となる。⑤545、⑤311号 土地画整理法公布。⑤564 6.9 防衛庁設置法・自衛隊法、公布。⑤622 6 学校給食法、成立。⑤604 10.12 故久保山愛吉氏追悼・全国漁民大会。⑤543、④566号
1955	昭和30	1.1 小川町・和田村・大富村・東益津村、焼津市と合併。⑤454・551 1.7 焼津市連合婦人会が結成。⑤528、④552号 5.20 第5福竜丸乗組員22人、退院。⑤543 6 焼津魚市場落成。⑥ 7.27 市議会、第1回原水爆禁止世界大会(広島)へ代表者派遣を議決。⑤529・544、④567～569号	1.4 日米間でビキニ被災事件の補償問題の公文交換(見舞金200万ドル)。⑤540 6.22 世界平和大会、ヘルシンキで開催。⑤543 8.14 静岡県青年団連絡協議会結成記念大会。⑤524 9.19 原水爆禁止日本協議会、発足。⑤545
1956	昭和31	2 焼津瓦斯株、東海瓦斯株に社名変更。⑤583 4 原水爆反対静岡県漁民大会。⑥ 10 小川地区土地画整理組合設立。⑤566 12 市内学校長・PTA会長、高等学校設置を陳情。⑤611	5.14 日ソ漁業条約成立調印。⑥ 6.30 新教育委員会法、公布。⑤509 9 海外漁業協力会、発足。⑥ この年 政府、教育三法を国会に提出。⑤600 12.6 日ソ通商条約調印。
1957	昭和32	1 東益津漁業協同組合解散、組合員は焼津漁協に加入。⑥ 3 焼津築港事業、焼津漁港周辺土地画整理事業、完成。⑤563 4.1 越後島、焼津市に合併。現在の焼津市域となる。⑤454 この年 焼津駅周辺地区整備のため、土地画整理事業を施行。⑤564 林叟院本堂、瓦葺に改修。⑤756	8 静浜飛行場、航空自衛隊第2操縦学校分校となる。⑤625 9.27 狩野川台風。
1958	昭和33	7 石津土地画整理事業、完成。⑤567 11 焼津鯉節業界最低賃金制を実施。⑥655 この年 市財政、赤字計上。⑤555	9.26 伊勢湾台風。10.8 沿岸漁業近代化資金制度創設。
1959	昭和34	2.10 第18吉祥丸遭難、27人犠牲。⑤633 3 焼津水産化学工業株設立。12 焼津水産会設立。⑥632 この年 焼津高校、別科の家庭科廃止。⑤615	2.13 フランスが核実験。⑤550 6.23 日米新安保条約発効。
1960	昭和35	7.9 焼津市青年団協議会発足。⑤525 9 小川地区土地画整理事業、完成。⑤567	6.12 農業基本法公布。⑤681 この年 県、第6次静岡総合開発計画。⑤556
1961	昭和36	4 焼津水産高校、全日制課程に無線通信科を増設。⑤617 5.3 大富青年団、発足。⑤525 7 焼津船主協会設立。⑥244	5.10 新産業都市建設促進法公布。⑤556 10.5 全国総合開発計画決定。⑤556
1962	昭和37	7.6 県立焼津青少年の家開所式。12 焼津南小学校完全給食実施を市長に陳情。⑤606 この年 市、(財)国土計画協会に委託し、焼津市総合開発計画専門調査報告書を作成。⑤558、④500号	7.20 中小企業基本法制定。⑤681 8 第9回原水爆禁止世界大会、政党間で対立。⑤545 沿岸漁業等振興法公布。⑥
1963	昭和38	4.10 静岡県立焼津中央高等学校、開校。⑤613 6 焼津魚仲買人組合、焼津魚仲買人水産加工業協同組合に。⑥ この年 焼津西小・焼津南小・小川小で完全給食開始。⑤606	4.1 県立農業経営高校、開校。⑤681 10.16 中国が核実験。10 東海道新幹線営業開始。東京オリンピック開催。
1964	昭和39	9 焼津中央高校校舎(小土)完成で移転。⑤613 10 鯉節組合信用部を設置。⑥ この年 福一漁業株設立。⑤574 ⑥石原水産株、業務開始。⑤575	

西暦	日本年号	市内	市外
1965	昭和40	1 市民体育館完成。 4 焼津駅新駅舎が完成。 10.7 マリアナ諸島アグリガン島沖合で第3千代丸、第8国生丸ら遭難。①635, ④495号, ⑤344・345号 12 焼津市・藤枝市・岡部町・大井川町、2市2町合併調査研究協議会設立。①558, ④501号	2.1 原水爆禁止国民会議(原水禁)結成。①545 3.18 愛知県犬山市に明治村、開村。 5.18 山一証券事件。
1966	昭和41	9.13 小泉八雲顕彰会発足。①161 9.25 台風26号襲来、市内で死者4人。①630, ④571号 9 財政再建団体の指定解除。①556 この年 国道150号線焼津工区完成(現県道静岡焼津線)、焼津-吉田間開通。①601 豊田・東益津・大富・和田の小中学校給食共同調理開始。①606	5 中国、文化大革命始まる。 10.31 中央教育審議会、「期待される人間像」。この年 藤枝市議会、2市2町の合併を決議。①559
1967	昭和42	5.10 焼津ガス株、設立。①583 6 東名日本坂トンネル貫通。 7 石津パラジマ地区土地区画整理事業、完成。①567 9 指定漁業許可一斉更新に際し、個人船主の多くが法人成り。②266	7 中小漁業振興特別措置法公布。 8.3 公害対策基本法公布 10 第3次中東戦争。
1968	昭和43	6 焼津水産高校練習船やいづ1世竣工。①668, ③309 9 都市計画法での地域地区制の指定。①640 この年 焼津高校、併設中学校を廃止。①615 山之内製薬株、進出。①578・580	6.15 都市計画法、全面改正。①638 この年 日本、世界第2位のGNP規模。
1969	昭和44	2 東名高速道路焼津インターチェンジ開設(全通5月)。この年 焼津市下水道事業計画、国認可。①645	3 地方自治法改正。①646 6 漁業近代化資金助成法。 7 農業振興地域の整備に関する法律が制定。①642
1970	昭和45	2 2市2町合併調査研究協議会、解散。①560 4 静岡県立漁業高等学園、県の職業対策部の出先機関として小川に開校。①670 市立港小学校、開校。①601 この年 新屋ポンプ場建設着工。市下水道事業開始。①645	3 日本万国博覧会、開会(大阪)。 12 水質汚濁防止法公布。
1971	昭和46	3 小泉八雲滞在の家を明治村へ譲渡。①161・791 5 水産会、公害対策委員会設置。③671 7 県水産試験場本場、焼津に新築移転。③	8.14 アメリカ、金ドル交換部分停止。この年 三菱商事、東洋冷蔵株を設け、マグロの一船買い開始。③666
1972	昭和47	1 小川と石津両土地区画整理組合、設立。①644 3 水産物出荷、トラック輸送切り換え完了。③676 7 志太2市2町環境整備組合初議会。 10 協同組合焼津水産加工センター設立。③683	5.15 沖縄返還。この年 大洋漁業海外まき網船はやぶさ丸建造、以後新船建造あいつぐ。③298
1973	昭和48	4 市立港中学校、開校。①602 10 新日本坂トンネル貫通。この年 市、農業振興地域整備計画を策定。①643	2.14 円変動相場制。 6 財海外漁業協力財団設立。③ 10 第4次中東戦争で石油危機。①683
1974	昭和49	2 天皇・皇后、焼津漁協を視察。 4 焼津鮮魚介小売商業協組設立。③ 5 水産加工センター共同施設完成。③ 7.7 七夕豪雨。市内では床上浸水396戸・床下浸水564戸。①630, ④572号	4 日本鯉節協会設立。③ 5.18 インドが地下核実験。 6.25 国土利用計画法公布。
1975	昭和50	7 小川漁業協同組合、和田漁業協同組合と合併。③	
1976	昭和51	3 市、中央部整備構想計画を作成。①658 5 田尻北地区、土地区画整理組合設立。①645 10 日鯉連、焼津外港に1万トンの超低温冷蔵庫建設。③	6.10 都立第五福竜丸展示館が開館。①545 6 漁業再建整備特別措置法公布。③268 この年 駿河湾を中心に東海地震が警告される。①688 海外まき網漁業船の南方漁場における周年操業化。③
1977	昭和52	2 焼津市とホバート市、姉妹都市調印式。 3 焼津市総合計画、策定。①648	5 日本が200カイリ漁業水域を設定。 6.15 大規模地震対策措置法。
1978	昭和53	7 焼津水産高校練習船やいづ2世竣工。①668 この年 焼津中央高校、初の外国人講師が来校。①669	10 イラン・イスラム革命により第2次石油危機。
1979	昭和54	4 市立黒石小学校、開校。①601・663 7 東名日本坂トンネルで大火災事故。この年 サッポロビール、静岡工場(浜当日)で醸造開始。①579	
1980	昭和55	4 汐入下水処理場で焼津市下水道通水式。①645 この年 遠洋カツオ船5隻で1隻の海外まき網船建造へ。③	8.16 静岡駅前ゴールデン街でガス爆発事故。

西暦	日本年号	市内	市外
1981	昭和56	1 市、中央部都市改造事業で自治会単位の懇談会。①660 12 中央地区区画整理計画についてアンケート調査実施(翌年2月、報告書完成)。①661	
1982	昭和57	9.12 台風18号襲来、市内は死者3人、負傷者9人。①631, ④573号	7 IWC(国際捕鯨委員会)が商業捕鯨全面禁止を決定。
1983	昭和58	3.23 市議会、静浜基地の空母ミッドウェー艦載機着陸訓練反対意見書可決。①627 4.14 焼津・大井川学校給食組合設立。①606 この年 焼津鉄工団地、施工。①578 永豊寺山門、修理。①700・747	1.9 核空母ミッドウェー艦載訓練基地反対実行委員会、結成。①627 3.14 臨時行政調査会最終答申。
1984	昭和59	5 焼津・大井川学校給食センターが完成。①606	
1985	昭和60	3 第2次焼津市総合計画、策定。①650 6.19 市議会、核兵器廃絶を願う焼津宣言、議決。①550 6.28 焼津市文化センター、開館。①666 6.30 第1回第5福竜丸事件6・30市民集会開催。①550 10 焼津さかなセンター開設。	4.1 日本電信電話株(NTT)、日本たばこ産業株(JT)が開業。
1987	昭和62	3 西焼津駅、新設。①587	4.1 国鉄、分割民営化。
1988	昭和63	9 志太2市2町環境整備組合が志太広域事務組合に名称変更。	
1989	平成1	4 小川漁港魚市場荷捌場完成。③	4.1 消費税(3%)実施。
1990	平成2	4.10 組合立静岡県中部看護専門学校、開校。①674	4 船員法施行規則の改正で、外国人船員の日本漁船への混乗が可能となる。③
1991	平成3	3 枋山川自然観察公園が完成。 7 焼津市総合体育館(シーガルドーム)完成。①666	この年 外務省、日米極秘外交文書第5福竜丸事件等関係資料を公表。①530
1992	平成4	4 静岡精華短期大学開学。①678 6 小泉八雲記念館建設整備事業基金条例、市議会で可決。①164	6.16 衆院本会議、PKO協力法・国際緊急援助派遣法改正可決。 12 海外漁業船員労使協議会で、外国人船員の40%混乗に基本合意。③
1994	平成6	3 第3次焼津市総合計画、策定。①651	1.17 阪神・淡路大震災が発生。
1995	平成7	10.20 平和都市焼津宣言。①546, ④570号	
1996	平成8		7 国連海洋法条約の発効
1997	平成9	5 市史編さん事業に着手。 7 ディスカバリーパーク焼津、開館。	
1998	平成10	3 復元された焼津八丁櫓「たける」が進水。	5.28 パキスタンが地下核実験。①550
1999	平成11	この年 焼津市、自主運行バスを開始。①588 元第5福竜丸船員小塚博の労災認定、県が否認。翌年7月厚生省より労災認定。①546	この年 男女共同参画社会基本法制定。①688
2000	平成12	5.31 浜通り石積み防波堤撤去。	7.8 三宅島の雄山噴火。
2001	平成13	9 駿河湾深層水の取水供給施設が完成、試験給水を開始。 10 第21回全国豊かな海づくり大会開催。	6 水産基本法の制定。 7 静岡県男女共同参画推進条例、公布。①688 9.11 アメリカで同時多発テロ発生。
2002	平成14	7.17 志太2市2町(焼津市・藤枝市・岡部町・大井川町)任意合併協議会、発足。 12.12 新日本坂トンネル完成式。この年 林叟鐘楼、屋根等改修工事。①700・751	5~6 サッカー・ワールドカップ、日本と韓国で共同開催。 8.5 住民基本台帳ネットワーク開始。
2003	平成15	4 静岡精華短期大学、静岡福祉情報短期大学と改称。①679 5.26 総合福祉会館・ウェルシップやいづ開館。 5 駿河湾深層水脱塩施設が完成、供用開始。 10 焼津駅南口広場の完成。	10.26 第58回国体・NEW!!わかふじ国体が静岡県で開催(~29日)
2004	平成16	3 第4次焼津市総合計画、策定。①687 4.17 深層水ミュージアム開館。 4 静岡福祉情報短期大学、静岡福祉大学を開校。①679 6.30 県中部に集中豪雨。市内では浸水等の被害。	10.23 新潟県中越地震が発生。 12.26 インドネシア・スマトラ島沖地震発生。
2005	平成17	4.3 東益津小学校と公民館完成記念式典。	4.1 静岡市が政令指定都市に移行。
2006	平成18	3.21 防犯システム完備の塩津地下道完成。 7.19 タラソテラピー施設・アクアスやいづ完成。	
2007	平成19	4.2 焼津市及び大井川町合併協議会、発足。 4.25 地域産物販売提供施設・うみえーる焼津、オープン。 6.27 焼津小泉八雲記念館、開館。	7.16 新潟県中越沖地震(柏崎刈羽原発が全面停止)。

- 79 ① 2 焼津市蔵
ものづくり焼津の文化施設
① 石一様焼津水産振興センター提供
⑧ 上ノテイスカバリパーク焼津提供
下ノ焼津市蔵

第7章 民俗

- 80 海蔵寺ものがたり
2 焼津市東小川 海蔵寺蔵
81 焼津神社の荒祭り
絵馬に込めた願い
1 5 焼津市花沢 法華寺蔵

- 82 焼津市東小川 海蔵寺蔵
2 6 焼津市保福局 大井神社蔵
3 焼津市保福局 大井神社蔵
4 焼津市大島 洞福寺蔵
7 焼津市大島 洞福寺蔵
海・里・山の年中行事
暮らした海の幸
85 84 83 恵まれた海の幸
8 焼津漁業協同組合蔵
86 焼津の伝説
5 焼津市蔵
9 増田恵一蔵

- 87 山のなりわい
平野のなりわい
地先と川の漁具・漁法
88 87 86 地先と川の漁具・漁法
1 2 3 焼津漁業協同組合蔵
港周辺の産業
90 カツオ一本釣漁船
[第12東洋丸]焼津市鵜ヶ島 青峯山教会蔵
91 鯉節製造技術の発達と職人の交流
1 焼津鯉節水産加工業協同組合提供
92 焼津市文化財保存協会提供
2 焼津市文化財保存協会提供
3 7 8 焼津市蔵
4 玉之浦書院 佐藤大蔵
5 遠藤卯男蔵

- 93 思い出の水揚げ風景
1 山崎博康蔵
2 6 焼津市文化財保存協会提供
3 7 8 焼津市蔵
4 玉之浦書院 佐藤大蔵
5 遠藤卯男蔵

- 94 第8章 文化財
94 焼津の神社
1 焼津市蔵
2 3 焼津市焼津 焼津神社蔵
5 焼津市中里 若宮八幡宮蔵 焼津市歴史
民俗資料館提供
7 焼津市文化財保存協会提供
95 焼津の神社建築・民家・石造物
7 焼津市文化財保存協会提供

- 96 焼津の寺院
1 2 焼津市花沢 法華寺蔵
4 5 焼津市東小川 海蔵寺蔵
7 焼津市坂本 林聖院蔵
97 焼津の寺院建築
1 焼津市東小川 海蔵寺蔵 焼津市歴史民
俗資料館提供
2 焼津市花沢 法華寺蔵 焼津市歴史民俗
資料館提供
3 焼津市一色 成道寺蔵 焼津市歴史民俗
資料館提供
4 焼津市東小川 海蔵寺蔵 焼津市歴史民
俗資料館提供
5 焼津市東小川 海蔵寺蔵
98 焼津の彫刻・絵画
1 焼津市花沢 法華寺蔵 焼津市歴史民俗
資料館提供
2 焼津市一色 成道寺蔵 焼津市歴史民俗
資料館提供
3 焼津市東小川 海蔵寺蔵 焼津市歴史民
俗資料館提供
4 焼津市浜当目 香集寺蔵 焼津市歴史民
俗資料館提供
5 焼津市東小川 海蔵寺蔵
99 焼津の工芸品・書跡・歴史資料
1 焼津市一色 成道寺蔵 焼津市歴史民俗
資料館提供
2 焼津市焼津 貞善院蔵 焼津市歴史民俗
資料館提供
3 焼津市焼津 普門寺蔵 焼津市歴史民俗
資料館提供
4 焼津市東小川 海蔵寺蔵 焼津市歴史民
俗資料館提供
5 焼津市中里 若宮八幡宮蔵 焼津市歴史
民俗資料館提供
6 7 焼津市石脇下 大日堂蔵 焼津市歴史
民俗資料館提供
8 焼津市石脇下 勢岩寺蔵 焼津市歴史民
俗資料館提供
9 焼津市石脇下 宝積寺蔵 焼津市歴史民
俗資料館提供
100 無形文化財・無形民俗文化財・天然記念物
2 焼津市蔵
6 焼津市四方 猪之谷神社蔵
7 増井みよ蔵 焼津市歴史民俗資料館提供
8 焼津市保福局 旭傳院蔵
9 焼津市坂本 林聖院蔵

- 昭和30年代 焼津 あこのころの記憶
「小川漁港カツオ船出見送り」中野寛蔵
「田植えの手伝い」雨科検診「焼津駅」

- 焼津市蔵
「山のぼん」石田昭夫蔵
「授業風景」焼津市立大富小学校蔵
「乙女ヶ丘海水浴場」昭和通りのネオン」
山崎博康蔵
「映画館ヤイヅ座」鶴橋温江蔵
「紙芝居」小長谷健蔵

- 協力者一覧（敬称略・順不同）
（本文巻末に掲載した所蔵者・提供者・撮影者等は除く）
東京都／古今書院
東京都／全国遠洋沖合漁業信用基金協会
東京都／平凡社、平凡社地図出版
静岡市葵区／静岡防災局防災情報室
静岡市葵区／榎浮月
静岡市清水区／静岡県歯科協会
大井川町／航空自衛隊静基地
大井川町／下江留地区
藤枝市／藤枝市立西益津中学校
島田市／大井神社
浜松市天竜区／秋葉山本宮秋葉神社
焼津市焼津／カネサ大石佐太郎商店
焼津市本町／三福旅館
焼津市栄町／秋山菓子店
焼津市中港／有カネ近藤商店
焼津市小川／静岡県水産技術研究所
焼津市三ヶ名／焼津小泉八雲記念館
焼津市中根／アルペン写真工房
伊久美隆
岩井昭夫
曾根成一
早川勲
藤村正幸
村松雄一郎
山口吉紀
山竹嘉人
吉井敦子
静岡県美蓉会
焼津市関方地区のみなさん
焼津市石脇地区のみなさん
罪切地蔵尊世話人
波除地蔵世話人

焼津市史編さん関係者名簿

（平成二十年三月一日現在 順不同・敬称略）

編さん委員会

- 委員長 戸本隆雄 焼津市長
副委員長 福島教男 焼津市副市長
委員 松本修蔵 焼津市議会議長
同 近藤梅夫 焼津市文化財保護審議会会長
同 小池直樹 焼津市教科領域研究委員
同 本多隆成 静岡大学人文学部教授
同 山本義彦 静岡大学人文学部教授
同 永田實治 焼津市教育長
同 紅林正美 焼津市総務部長

編集委員会

- 委員長 本多隆成 静岡大学人文学部教授
副委員長 山本義彦 静岡大学人文学部教授
考古部会
部長 滝沢 誠 静岡大学人文学部教授
委員 河合 修 静岡県教育委員会文化課主任
古代部会
部長 仁藤敦史 国立歴史民俗博物館
研究部歴史研究系准教授
中世部会
部長 本多隆成 静岡大学人文学部教授
委員 大塚 勲 静岡県地域史研究会
近世部会
部長 本多隆成 静岡大学人文学部教授
委員 松本稔章 静岡県教育委員会文化課主席指導主事
委員 北川裕章 静岡県立静岡城北高等学校教諭
委員 厚地淳司 静岡県地域史研究会

近現代部会

- 部長 山本義彦 静岡大学人文学部教授
委員 橋本誠一 静岡大学人文学部教授
委員 高木敬雄 静岡県立掛川東高等学校教諭
委員 枝村三郎 静岡県近代史研究会
民俗部会
部長 中村羊一郎 静岡産業大学情報学部教授
委員 荻野裕子 奈良教育大学非常勤講師
漁業担当
委員 大海原宏 東京水産大学名誉教授
委員 若林良和 愛媛大学農学部教授
自然環境担当
委員 加藤芳朗 静岡大学名誉教授
文化財担当
委員 日比野秀男 常葉学園大学教授
特別調査員
図説・年表担当 落合孟郎 焼津市文化財保護審議会委員
同 大塚善弘 志太自然ネットワーク事務局長
同 村松眞一 静岡大学名誉教授
同 寺尾賢次 焼津市文化財保護審議会委員
同 大嶋善孝 日本民俗学会会員
同 外立ますみ 日本民俗学会会員
同 川口円子 日本民俗学会会員
同 久保山幸治 焼津市文化財保護審議会委員
同 渥美 敏 静岡県水産技術研究所

調査員

- 民俗担当 繁原幸子 日本民俗学会会員
同 多々良典秀 静岡県民俗学会会員

調査協力者

- 新井 真 志太自然ネットワーク会員
国領康弘 志太自然ネットワーク副会長
鈴木洋一 志太自然ネットワーク会員
原直美 志太自然ネットワーク会員
増田章二 志太自然ネットワーク会員
三宅 隆 志太自然ネットワーク会員
（焼津） 森 要三 宇都木稔 桜井正治 甲賀秀一 本橋清司
岩本良平 石野鏡一 梅原辰夫
（豊田） 田村和見 新村慶治 近藤浩平
（小川） 北山英明 大石勇輝 青島健治 増田利夫 吉田周一
（東益津） 勝岡竹雄 仁科政美 海野 勇 栗林 登 増田俊彦
新村宗雄 落合孟郎 松本昭治 久保山幸治
（大富） 増田篤司 大畑敏郎 大房 敬
（和田） 洪谷 健 稲森義夫

編さん事務局

- 編さん室長 松下正之
資料収集担当主幹 近藤道子
室員 谷村幸子 同 栗田潤美
同 大橋佑美 同 桑原光子
同 藤岡美恵子 同 中村多恵子
同 加藤佳奈子

掲載資料の所蔵者・提供者・撮影者一覽 (敬称略)

所蔵者については〇〇蔵、写真原稿の提供を受けたものについては〇〇提供、撮影者については〇〇撮影、ただし、編纂者及び執筆者の署名については省略した。本文中に掲載した図・表のうち作成者等の注記のないものは、執筆者作成によるか、既刊の『焼津市史』において使用したものより作成した。また、転載の場合は本文中に記載した。

1 高草山の成り立ち・海底からの隆起
2 古志太湾の出現と志太平洋の生い立ち
3 断崖絶壁の磐石海岸とよらかな砂礫海岸
4 静岡県焼津漁港管理事務所提供
焼津の動物
5 焼津の魚介類
6 焼津の植物
7 静岡県水産技術研究所提供
8 静岡県水産技術研究所提供

第1章 自然
1 高草山の成り立ち・海底からの隆起
2 古志太湾の出現と志太平洋の生い立ち
3 断崖絶壁の磐石海岸とよらかな砂礫海岸
4 静岡県焼津漁港管理事務所提供
焼津の動物
5 焼津の魚介類
6 焼津の植物
7 静岡県水産技術研究所提供
8 静岡県水産技術研究所提供

第2章 原始・古代
7 農耕のはじまり
1 焼津市歴史民俗資料館提供
2 焼津市歴史民俗資料館提供
3 焼津市歴史民俗資料館提供
4 焼津市歴史民俗資料館提供
5 焼津市歴史民俗資料館提供
6 焼津市歴史民俗資料館提供
7 焼津市歴史民俗資料館提供
8 焼津市歴史民俗資料館提供
9 焼津市歴史民俗資料館提供
10 焼津市歴史民俗資料館提供
11 焼津市歴史民俗資料館提供
12 焼津市歴史民俗資料館提供
13 焼津市歴史民俗資料館提供
14 焼津市歴史民俗資料館提供
15 焼津市歴史民俗資料館提供
16 焼津市歴史民俗資料館提供
17 焼津市歴史民俗資料館提供
18 焼津市歴史民俗資料館提供
19 焼津市歴史民俗資料館提供
20 焼津市歴史民俗資料館提供

第3章 中世
18 益頭庄と方土御厨
19 益頭庄地頭北条時政
20 益頭庄地頭北条時政
21 益頭庄地頭北条時政
22 益頭庄地頭北条時政
23 益頭庄地頭北条時政
24 益頭庄地頭北条時政
25 益頭庄地頭北条時政
26 益頭庄地頭北条時政
27 益頭庄地頭北条時政
28 益頭庄地頭北条時政
29 益頭庄地頭北条時政
30 益頭庄地頭北条時政
31 益頭庄地頭北条時政
32 益頭庄地頭北条時政
33 益頭庄地頭北条時政
34 益頭庄地頭北条時政
35 益頭庄地頭北条時政
36 益頭庄地頭北条時政
37 益頭庄地頭北条時政
38 益頭庄地頭北条時政
39 益頭庄地頭北条時政
40 益頭庄地頭北条時政
41 益頭庄地頭北条時政
42 益頭庄地頭北条時政
43 益頭庄地頭北条時政
44 益頭庄地頭北条時政
45 益頭庄地頭北条時政
46 益頭庄地頭北条時政
47 益頭庄地頭北条時政
48 益頭庄地頭北条時政
49 益頭庄地頭北条時政
50 益頭庄地頭北条時政
51 益頭庄地頭北条時政
52 益頭庄地頭北条時政
53 益頭庄地頭北条時政
54 益頭庄地頭北条時政
55 益頭庄地頭北条時政
56 益頭庄地頭北条時政

第4章 近世
47 松浦孝治蔵
48 近世焼津の文化
49 増井みよ蔵
50 焼津市立和野小学校蔵
51 焼津市立和野小学校蔵
52 焼津市立和野小学校蔵
53 焼津市立和野小学校蔵
54 焼津市立和野小学校蔵
55 焼津市立和野小学校蔵
56 焼津市立和野小学校蔵
57 焼津市立和野小学校蔵
58 焼津市立和野小学校蔵
59 焼津市立和野小学校蔵
60 焼津市立和野小学校蔵
61 焼津市立和野小学校蔵
62 焼津市立和野小学校蔵
63 焼津市立和野小学校蔵
64 焼津市立和野小学校蔵
65 焼津市立和野小学校蔵
66 焼津市立和野小学校蔵
67 焼津市立和野小学校蔵
68 焼津市立和野小学校蔵
69 焼津市立和野小学校蔵
70 焼津市立和野小学校蔵
71 焼津市立和野小学校蔵
72 焼津市立和野小学校蔵
73 焼津市立和野小学校蔵
74 焼津市立和野小学校蔵
75 焼津市立和野小学校蔵
76 焼津市立和野小学校蔵
77 焼津市立和野小学校蔵
78 焼津市立和野小学校蔵

第5章 近代
47 松浦孝治蔵
48 近世焼津の文化
49 増井みよ蔵
50 焼津市立和野小学校蔵
51 焼津市立和野小学校蔵
52 焼津市立和野小学校蔵
53 焼津市立和野小学校蔵
54 焼津市立和野小学校蔵
55 焼津市立和野小学校蔵
56 焼津市立和野小学校蔵
57 焼津市立和野小学校蔵
58 焼津市立和野小学校蔵
59 焼津市立和野小学校蔵
60 焼津市立和野小学校蔵
61 焼津市立和野小学校蔵
62 焼津市立和野小学校蔵
63 焼津市立和野小学校蔵
64 焼津市立和野小学校蔵
65 焼津市立和野小学校蔵
66 焼津市立和野小学校蔵
67 焼津市立和野小学校蔵
68 焼津市立和野小学校蔵
69 焼津市立和野小学校蔵
70 焼津市立和野小学校蔵
71 焼津市立和野小学校蔵
72 焼津市立和野小学校蔵
73 焼津市立和野小学校蔵
74 焼津市立和野小学校蔵
75 焼津市立和野小学校蔵
76 焼津市立和野小学校蔵
77 焼津市立和野小学校蔵
78 焼津市立和野小学校蔵

影写本・東京大学史料編纂所蔵
3 伊豆の国市蔵
4 焼津市歴史民俗資料館蔵
5 焼津市歴史民俗資料館蔵
6 焼津市歴史民俗資料館蔵
7 焼津市歴史民俗資料館蔵
8 焼津市歴史民俗資料館蔵
9 焼津市歴史民俗資料館蔵
10 焼津市歴史民俗資料館蔵
11 焼津市歴史民俗資料館蔵
12 焼津市歴史民俗資料館蔵
13 焼津市歴史民俗資料館蔵
14 焼津市歴史民俗資料館蔵
15 焼津市歴史民俗資料館蔵
16 焼津市歴史民俗資料館蔵
17 焼津市歴史民俗資料館蔵
18 焼津市歴史民俗資料館蔵
19 焼津市歴史民俗資料館蔵
20 焼津市歴史民俗資料館蔵
21 焼津市歴史民俗資料館蔵
22 焼津市歴史民俗資料館蔵
23 焼津市歴史民俗資料館蔵
24 焼津市歴史民俗資料館蔵
25 焼津市歴史民俗資料館蔵
26 焼津市歴史民俗資料館蔵
27 焼津市歴史民俗資料館蔵
28 焼津市歴史民俗資料館蔵
29 焼津市歴史民俗資料館蔵
30 焼津市歴史民俗資料館蔵
31 焼津市歴史民俗資料館蔵
32 焼津市歴史民俗資料館蔵
33 焼津市歴史民俗資料館蔵
34 焼津市歴史民俗資料館蔵
35 焼津市歴史民俗資料館蔵
36 焼津市歴史民俗資料館蔵
37 焼津市歴史民俗資料館蔵
38 焼津市歴史民俗資料館蔵
39 焼津市歴史民俗資料館蔵
40 焼津市歴史民俗資料館蔵
41 焼津市歴史民俗資料館蔵
42 焼津市歴史民俗資料館蔵
43 焼津市歴史民俗資料館蔵
44 焼津市歴史民俗資料館蔵
45 焼津市歴史民俗資料館蔵
46 焼津市歴史民俗資料館蔵
47 焼津市歴史民俗資料館蔵
48 焼津市歴史民俗資料館蔵
49 焼津市歴史民俗資料館蔵
50 焼津市歴史民俗資料館蔵
51 焼津市歴史民俗資料館蔵
52 焼津市歴史民俗資料館蔵
53 焼津市歴史民俗資料館蔵
54 焼津市歴史民俗資料館蔵
55 焼津市歴史民俗資料館蔵
56 焼津市歴史民俗資料館蔵

第6章 現代
70 焼津の農地改革
71 焼津の農地改革
72 焼津の農地改革
73 焼津の農地改革
74 焼津の農地改革
75 焼津の農地改革
76 焼津の農地改革
77 焼津の農地改革
78 焼津の農地改革
79 焼津の農地改革
80 焼津の農地改革
81 焼津の農地改革
82 焼津の農地改革
83 焼津の農地改革
84 焼津の農地改革
85 焼津の農地改革
86 焼津の農地改革
87 焼津の農地改革
88 焼津の農地改革
89 焼津の農地改革
90 焼津の農地改革
91 焼津の農地改革
92 焼津の農地改革
93 焼津の農地改革
94 焼津の農地改革
95 焼津の農地改革
96 焼津の農地改革
97 焼津の農地改革
98 焼津の農地改革
99 焼津の農地改革
100 焼津の農地改革

第7章 現代
70 焼津の農地改革
71 焼津の農地改革
72 焼津の農地改革
73 焼津の農地改革
74 焼津の農地改革
75 焼津の農地改革
76 焼津の農地改革
77 焼津の農地改革
78 焼津の農地改革
79 焼津の農地改革
80 焼津の農地改革
81 焼津の農地改革
82 焼津の農地改革
83 焼津の農地改革
84 焼津の農地改革
85 焼津の農地改革
86 焼津の農地改革
87 焼津の農地改革
88 焼津の農地改革
89 焼津の農地改革
90 焼津の農地改革
91 焼津の農地改革
92 焼津の農地改革
93 焼津の農地改革
94 焼津の農地改革
95 焼津の農地改革
96 焼津の農地改革
97 焼津の農地改革
98 焼津の農地改革
99 焼津の農地改革
100 焼津の農地改革

第8章 現代
70 焼津の農地改革
71 焼津の農地改革
72 焼津の農地改革
73 焼津の農地改革
74 焼津の農地改革
75 焼津の農地改革
76 焼津の農地改革
77 焼津の農地改革
78 焼津の農地改革
79 焼津の農地改革
80 焼津の農地改革
81 焼津の農地改革
82 焼津の農地改革
83 焼津の農地改革
84 焼津の農地改革
85 焼津の農地改革
86 焼津の農地改革
87 焼津の農地改革
88 焼津の農地改革
89 焼津の農地改革
90 焼津の農地改革
91 焼津の農地改革
92 焼津の農地改革
93 焼津の農地改革
94 焼津の農地改革
95 焼津の農地改革
96 焼津の農地改革
97 焼津の農地改革
98 焼津の農地改革
99 焼津の農地改革
100 焼津の農地改革

第9章 現代
70 焼津の農地改革
71 焼津の農地改革
72 焼津の農地改革
73 焼津の農地改革
74 焼津の農地改革
75 焼津の農地改革
76 焼津の農地改革
77 焼津の農地改革
78 焼津の農地改革
79 焼津の農地改革
80 焼津の農地改革
81 焼津の農地改革
82 焼津の農地改革
83 焼津の農地改革
84 焼津の農地改革
85 焼津の農地改革
86 焼津の農地改革
87 焼津の農地改革
88 焼津の農地改革
89 焼津の農地改革
90 焼津の農地改革
91 焼津の農地改革
92 焼津の農地改革
93 焼津の農地改革
94 焼津の農地改革
95 焼津の農地改革
96 焼津の農地改革
97 焼津の農地改革
98 焼津の農地改革
99 焼津の農地改革
100 焼津の農地改革

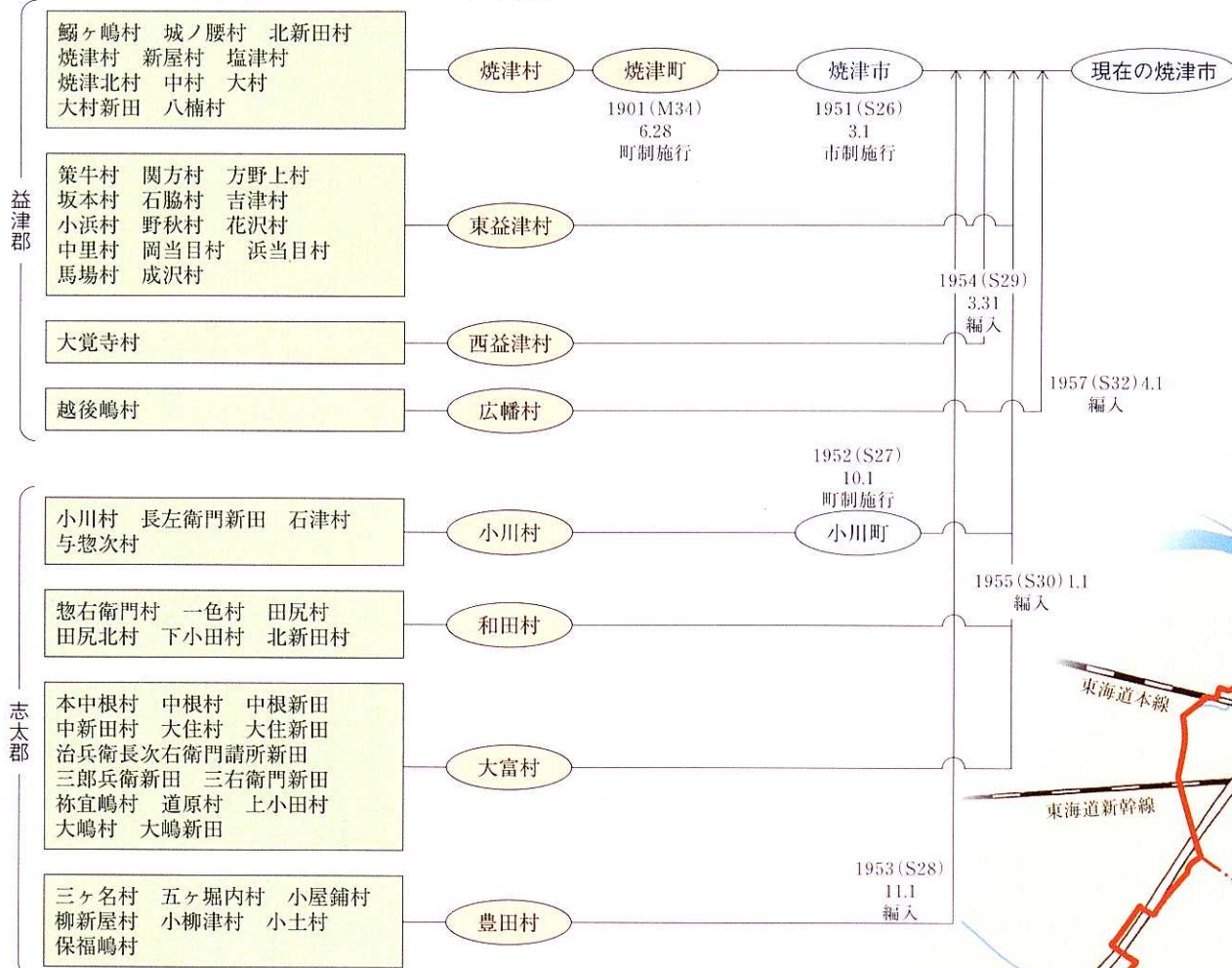
第10章 現代
70 焼津の農地改革
71 焼津の農地改革
72 焼津の農地改革
73 焼津の農地改革
74 焼津の農地改革
75 焼津の農地改革
76 焼津の農地改革
77 焼津の農地改革
78 焼津の農地改革
79 焼津の農地改革
80 焼津の農地改革
81 焼津の農地改革
82 焼津の農地改革
83 焼津の農地改革
84 焼津の農地改革
85 焼津の農地改革
86 焼津の農地改革
87 焼津の農地改革
88 焼津の農地改革
89 焼津の農地改革
90 焼津の農地改革
91 焼津の農地改革
92 焼津の農地改革
93 焼津の農地改革
94 焼津の農地改革
95 焼津の農地改革
96 焼津の農地改革
97 焼津の農地改革
98 焼津の農地改革
99 焼津の農地改革
100 焼津の農地改革

市町村沿革表

「天保郷帳」
(1834年)

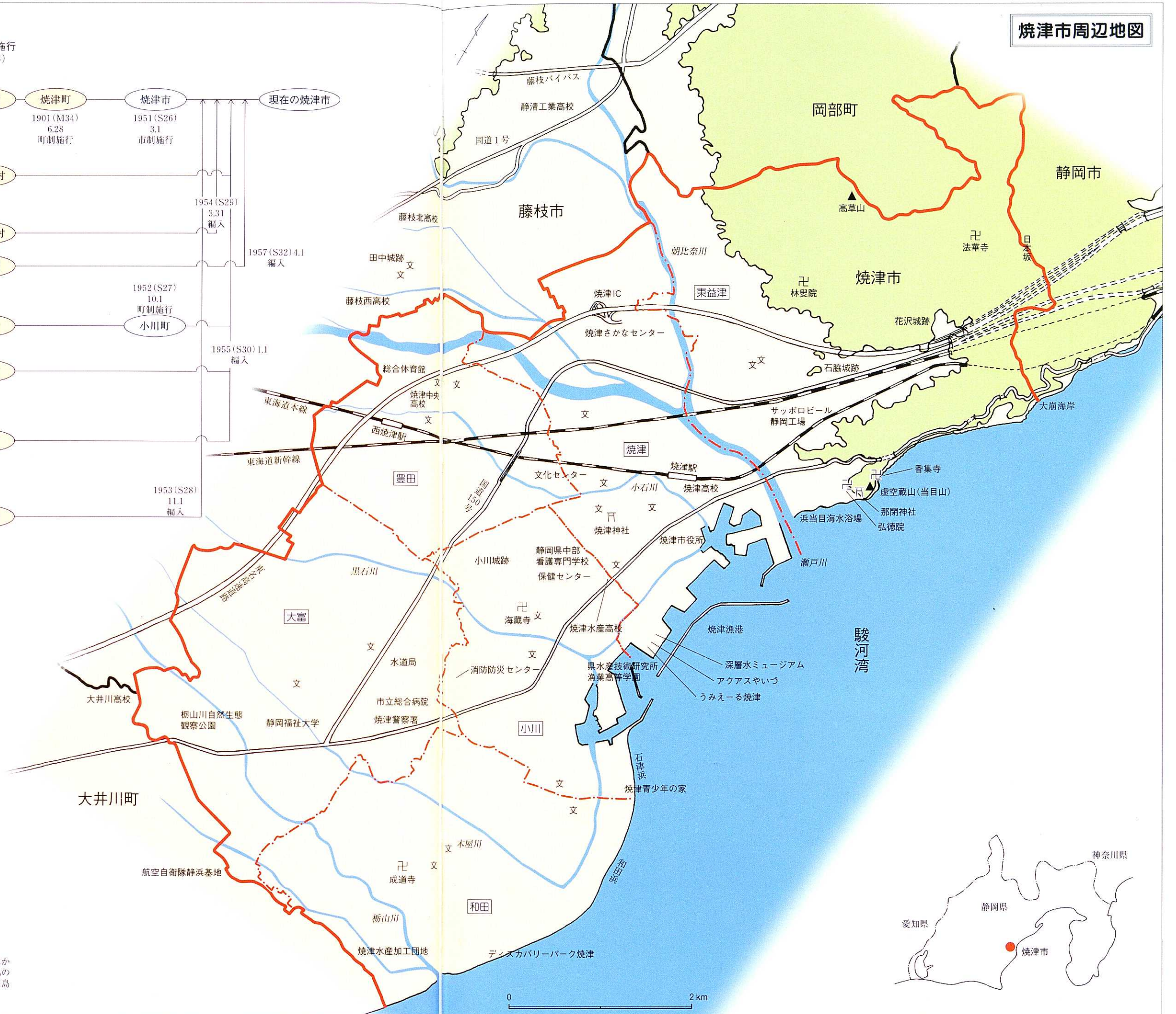
市町村制施行
(1889年)

現在の焼津市



*静岡県総務部市町村課『静岡県市町村名100年の変遷』(1988年)、焼津市誌編纂委員会『焼津市誌 下巻』(1971年編纂)、平凡社地方資料センター『日本歴史地名大系第22巻静岡県地名』(2000年)より作成。

*一部は現藤枝市。



— 焼津市域
 - - - 旧市町村境*
 — 市境
 文 小・中学校

*境界は、1953～57年にかけての市町村合併時のものとしたが、大覚寺・越後島は旧焼津地区に含めた。

0 2 km



焼津
昭和30年代
あのころの記憶

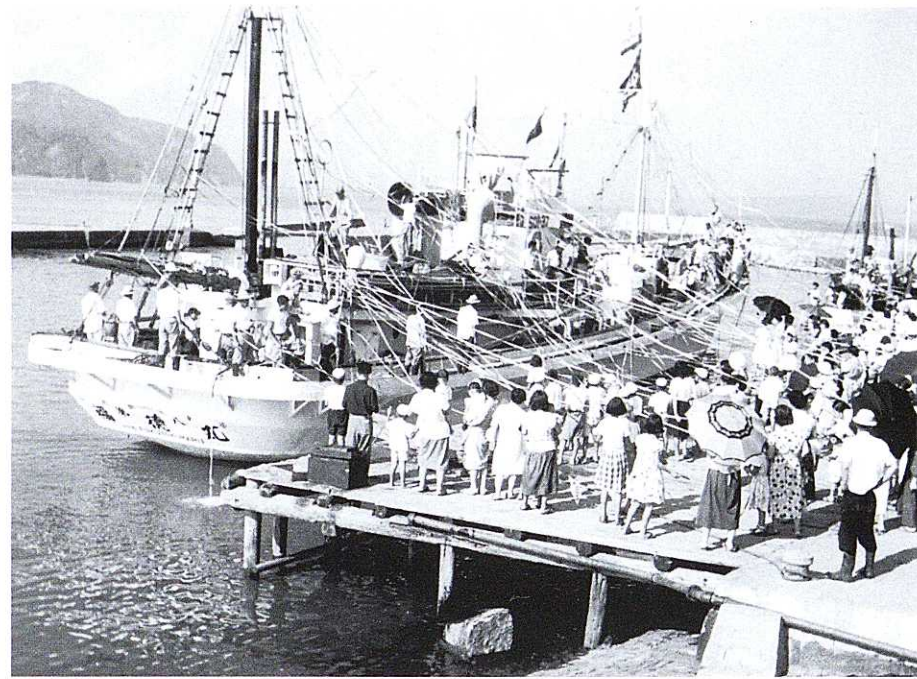
市町村合併により、現在の焼津市が成立した昭和30年代。人々の暮らしが大きく変わりはじめた時代でもあった。



焼津駅 (1956年)



乙女ヶ丘海水浴場 (1954年)



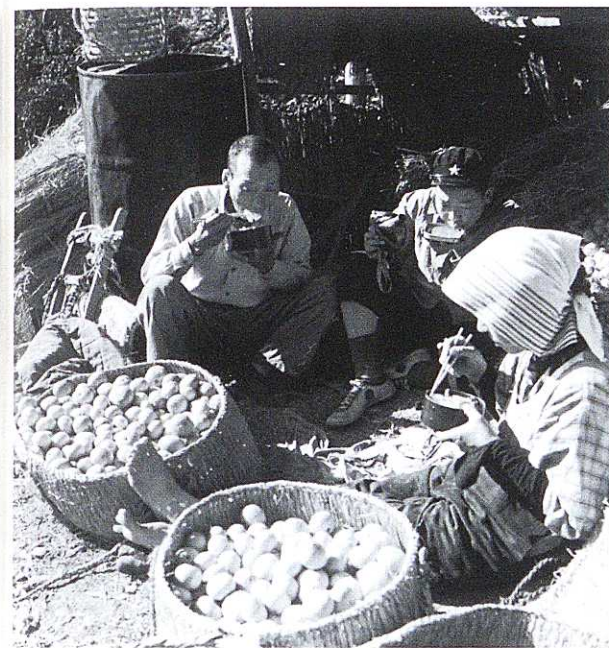
小川漁港カツオ船出漁見送り (1955年頃)



昭和通りのネオン (1953年)



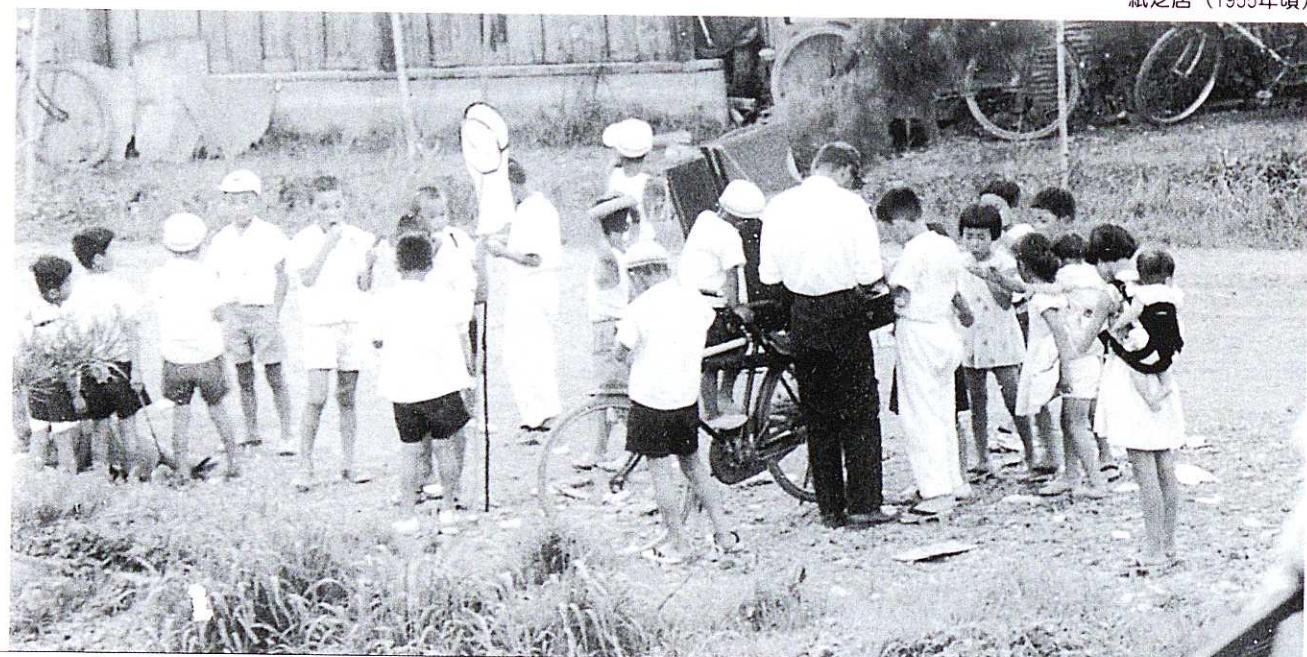
映画館 ヤイツ座 (1955年頃)



山の昼ごはん (1955年頃)



田植えの手伝い (1961年頃)



紙芝居 (1955年頃)



授業風景 (1958年頃)



歯科検診 (1956年頃)